

# 内子町環境報告書 2018

～キラリと光るエコロジータウン内子～

## 1 発行にあたり

平成 30 年度を振り返るにあたり、7 月の豪雨により被害に合われた皆様に、改めて心からのお見舞いを申し上げます。災害廃棄物処理基本計画を策定する平成 30 年度において、こうした災害が発生したことは、計画の重要性を強調するものでした。自然環境の変化にどう適応していくのか、自然環境を保全しながら、どう調和のとれた暮らしをしていくのか、エコロジータウンをめざしたまちづくりに何が求められるのかを、考えさせられる一年となりました。さらに時代は平成から令和へと移り変わり、気候変動による影響をますます実感する今日、“キラリと光るエコロジータウン内子”というキャッチフレーズに恥じないように、環境政策を推進していかなければなりません。皆様のますますのご理解・ご協力をお願いいたします。

令和 2 年 3 月

内子町長 稲本 隆 壽

### 【目次】

1 発行にあたり	
2 環境トピック	
<自然分野>	
(1) トンボの里の整備と観察会.....	1
(2) 西日本豪雨災害.....	2
(3) 第 25 回内子の森づくり.....	2
(4) 歴史まちづくりシンポジウムと 歴史的風致維持向上計画.....	3
<暮らし分野>	
(5) アースデイ内子の開催.....	3
(6) マイバッグキャンペーンの実施.....	4
(7) 第 2 回ごみ減量アイデアコンテスト.....	4
(8) 災害廃棄物処理計画の策定.....	5
(9) 内子バイオマス発電所が稼働.....	6
(10) ペレットストーブの導入.....	7
(11) 第 9 回緑のカーテンコンテスト.....	7
<環境教育分野>	
(12) 平成 30 年度環境子ども会議.....	8
(13) 第 15 回内子発環境会議の開催.....	10
(14) 自然エネルギー学校の開催.....	11
3 内子町環境基本計画	
(1) 推進状況と目標達成状況.....	12
(2) 目標達成状況まとめ.....	23
(3) 独自目標と達成度.....	24
4 内子町エコオフィスプラン	
(1) 取組内容.....	45
(2) 取組結果.....	45
5 内子町環境マネジメントシステム"うちエコ"	
(1) 取組内容.....	49
(2) 監査結果.....	50
(3) 優良部署表彰.....	61
6 環境データ	
(1) 河川・土壌.....	62
(2) ごみ.....	65
(3) 再生可能エネルギー.....	68

## <自然の分野>

### (1) トンボの里の整備と観察会

2年目を迎えるこの事業。平成30年度においても、愛媛県の「生物多様性保全・再生モデル地区推進事業（内子地域）」にNPO法人内子未来づくりネットワークが応募し、採択を受け、関係機関とともに事業を実施しています。この事業は、身近な生き物が観察できるビオトープの整備・充実や、地域の次世代を担う子ども達を対象とした自然観察会、地域に生息する生き物調べ等を開催することにより、地域共有の財産である豊かな自然環境を今後も見守り続ける体制づくりを図ろうという目標のもとに行われています。

今年度は、トンボの調査にも力を入れ、トンボの里（平岡地区）で観察された記録があり、今では見られなくなっているトンボについて、調査を実施しました。残念ながら、今年度はそれらのトンボを確認することはできませんでしたが、調査地区で久しぶりに池干しが行われ、トンボの生息環境に変化をもたらされたことから、今後の継続した調査が期待されます。

トンボの里は、平成12年3月に完成した上池上流部にあるビオトープですが、昨年、漏水の補修を行ったにもかかわらず、やはり水が抜けてしまうという結果でした。今年度は、さらに再整備を行うとともに、看板等を設置して、より親しみをもってもらえるように工夫をしました。

トンボはそれぞれ異なった水環境に住み分けしており、トンボを通してどのような自然環境にあるのかを知ることができると言えます。内子町には、四国に生息するトンボの約7割が観察できるという、豊かな自然環境が残っており、今後もトンボを通じて内子町の身近な自然を見つめていきます。

#### ■ビオトープ整備



#### ■観察会



事業実施者：NPO法人内子未来づくりネットワーク

担当：五十崎自治センター・環境政策室

## (2) 西日本災害豪雨「平成 30 年 7 月豪雨」と災害対応

平成 30 年 7 月、台風第 7 号や梅雨前線の影響により、西日本を中心に広い範囲で豪雨が発生しました。内子町では、生活道路や橋の流出、河川の氾濫や土砂崩れ、住宅への浸水などの被害が発生しました。幸い人的被害はありませんでしたが、各地で豪雨の爪痕が残されました。改めて、被害にあわれた皆様に心からのお見舞いを申し上げます。



内子町における住宅の倒壊や浸水などによる災害廃棄物の処理内容は以下のとおりです。また、今回の水害により、「大洲・喜多衛生事務組合 清流園」は浸水被害を受け、約 2 カ月にわたって廃棄物の受入・処理ができなくなりました。このため、内子町から排出されるし尿及び浄化槽汚泥は、一時的に「内子町浄化センター」へ搬入・処理することとなりました。

### ■災害廃棄物処理内容（平成 31 年 3 月現在）

- ・被害件数 20 件
- ・災害廃棄物の量 5.85 t
- ・内子町浄化センター搬入量 598,980kg

担当：環境施策室

## (3) 第 25 回内子の森づくり

3 月 9 日、小田深山千年の森公園において、内子の森づくり事業が行われました。日本ボーイスカウト内子第 1 団、4 S キッズ、ODA の木協会、愛媛新聞社、内子町森林組合、林研グループなど、約 60 名が参加しました。

開会行事の中では、小田支所職員より四国の森や小田深山の現状についてミニ講演会があり、近隣市町では鹿の被害が見られ、内子でもその懸念があるなどの報告がありました。

植樹では、まず最初に記念植樹としてヤマザクラが植えられ、その後、ケヤキやブナ、ミズナラなど、400 本の苗木が植えられました。植樹する場所は公園内でも開けた所に位置しており、眺望の良い場所での森づくりは、気持ちも晴々とするものになりました。

主催：愛媛新聞社・内子町

担当：産業振興課



#### (4) 歴史まちづくりシンポジウムと歴史的風致維持向上計画

内子町は、「歴史的風致維持向上計画」の策定に向けて取り組みを進めていますが、多くの人と町の未来を語ることで、計画の周知を図り、景観・歴史・伝統文化を活かしたまちづくりの契機にしようと、平成30年10月14日、内子座にて歴史まちづくりシンポジウム「内子のミライ～歴史を活かしたまちづくり作戦会議～」を開催しました。

シンポジウムでは、神戸芸術工科大学西村幸夫教授の講演や、東京大学年デザイン研究室からの事業提案などがあつたほか、各分野で活躍する町民8人がパネリストとなって、情報提供や意見交換がなされました。



また、計画策定に向け、シンポジウムに先立つ5月16日には、内子自治センターにて町民70名余りが参加し、内子町が今後どんな町であるべきかなど、町への期待や思いを語り合いました。

「歴史的風致維持向上計画」は、歴史まちづくり法のもと、歴史的風致の維持向上を図ろうとする市町村が策定し、その計画を主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）が認定するもので、認定を受ければその取組の支援を受けることができます。町民の熱い思いや調査等によって掘り起こされた内子の魅力がいっぱいにつまったこの計画は、策定の後、認定に向けて手続きを進めていきます。

担当：町並保存センター

#### <暮らしの分野>

##### (5) アースデイ内子の開催

内子町ごみ減量検討委員会（現：内子町5R推進委員会）の有志らが結成した環境活動推進グループのECO-ZUKI内子（エコ好き内子）。環境に配慮した暮らしを学び、実践していこうと活動をしています。

4月22日はアースデイ（地球の日）。世界各地で様々な環境に関する取組が行われていますが、この日に合わせて活動しようと、ごみ拾いと交流会を行いました。

当日は県下から国籍も様々に40人余りが参加し、晴天の下、郷の谷川沿いのごみ拾いを行いました。集めたごみは持ち帰り、リサイクルできるものはなるべくリサイクルしようと、さらに分別しました。2時間ほどで集めたごみの量は約90kg。内子町副町長へ報告し、ごみ減量の政策をさらに進めてほしいと伝えました。その後、ごみ拾いをしたすがす



がしい気持ちの中、エコフレンズ弁当（使い捨て容器などのごみを出さない弁当）を食べながら、参加者同士の交流を深めました。

#### ■収集したごみの量

・燃えるごみ 36kg ・燃えないごみ 40kg ・リサイクルごみ 14.5kg

事業実施者：ECO-ZUKI 内子

担当：環境政策室

#### （6）マイバッグキャンペーンの実施

ECO-ZUKI 内子は内子町とともに、マイバッグキャンペーンを実施しました。ごみ減量の第一歩として、買い物の際に使われるレジ袋を削減しようと、マイバッグ宣言をした方に、オリジナルのマイバッグをプレゼントするものです。内子フレッシュパークからり、内子 100 円商店街、昔べっぴん母ちゃん達の 100 円市の 3 か所で行いました。マイバッグ宣言をした方は、さっそくそのマイバッグを利用して買い物をする姿も見られました。

キャンペーンでは、ごみ減量やプラスチックに関すること、ごみをなるべく出さないロー・ウェイストな暮らし方についてなどの展示も行いました。プラスチックは、マイクロプラスチックによる海の汚染など注目を集め、世界各地で対策が進められています。マイバッグを使い、レジ袋を新たに使わないことを第一歩に、プラスチック減量、ごみ減量へとつなげていくため、今後もキャンペーン活動を続けていきます。



担当：環境政策室

#### （7）第2回ごみ減量アイデアコンテスト

ごみ減量をめざすため、平成 30 年度もアイデアコンテストを開催しました。今回は、燃えるごみの中で、とりわけ占める割合の多い“紙ごみ”と“プラスチック”を対象に、その減量をめざすアイデアを募集しました。アイデアコンテストでは、文字どおりアイデアを出すものと、実践しているアイデアが集まりました。コンテストの受賞者は以下のとおりです。みなさんもチャレンジしよう！

■応募期間：12月1日～1月31日

部門	提案者 (受賞者)	アイデアの内容
アイデア部門	A	①各地区の集会所などにダンボール・布類を持っていけるスペースを作 ってはみてはどうか。家に長期間置くのを嫌ってごみに出す人が多いよ う。 ②各地区で機会がある毎に話題にのせることが必要だと思う。
実践部門	西森 とみえ	新聞や宣伝広告などの用紙を集めておいて活用している。 鍋敷、果物入れの籠などを編んで、ごみ減量と生活を楽しんでいる。用 紙の色合わせで出来上がりもそれぞれ違った作品が出来上がるのも楽 しみです。我が家での暮らしの中のインテリアにもなるし、お世話になった 方や親戚、知人などにプレゼントして喜んで頂いている。

担当：環境政策室

(8) 災害廃棄物処理計画の策定

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、大規模地震に加え、津波の発生により、これまでの災害を遥かに超えた災害が広範囲に発生しました。

これを受けて、国では、東日本大震災をはじめ、近年全国各地で発生した大雨、台風等の被害への対応から得た知見や知識を踏まえたうえで、平成26年3月、「災害廃棄対策指針」（環境省）を策定し、平成30年3月に改訂しました。

愛媛県においても、平成30年7月豪雨災害では災害廃棄物が大量に発生し、迅速かつ適正な処理が求められたところであり、また、近い将来発生が危惧される南海トラフ地震をはじめとする大規模震災時には、膨大な災害廃棄物が発生することにより、早期復旧の大きな阻害要因となることが懸念されていることから、あらかじめ災害発生時の災害廃棄物の迅速かつ適正な処理及びリサイクル推進等について平常時に可能な限り対策を講じるとともに「オール愛媛」の災害廃棄物処理体制の確立を図り、災害に備えるために災害廃棄物処理計画を策定しました。

内子町災害廃棄物処理計画は、国及び県の計画等に加え、内子町の「内子町地域防災計画」の内容を踏まえて策定したものです。想定する災害は「南海トラフ巨大地震（陸側ケース）」ですが、平成30年7月豪雨のように、風水害による廃棄物の発生とその処理もまた、重要な課題であり、この基本計画においても発生量等を推計しました。

今後は、この基本計画をもとに災害時の対応に備えるとともに、初動態勢がスムーズとなるよう、関係機関との連携を深めていきます。

■南海トラフ巨大地震における災害廃棄物発生量推計値（表3-2）

被害区分ごとの 災害廃棄物発生量(t)		災害廃棄物の種類別発生量 (t)					災害廃棄物 発生量 (t)
全壊	半壊	可燃物	不燃物	コンクリート がら	金属	柱角材	
217,971	96,301	47,605	80,054	152,906	19,441	14,266	314,272

■風水害発生時の災害廃棄物発生量推計値（表 3-23）

被害区分ごとの 災害廃棄物発生量(t)		災害廃棄物の種類別発生量(t)		災害廃棄物 発生量 (t)
床上浸水	床下浸水	可燃物	不燃物	
11,183	194	7,964	3,413	11,377

担当：環境政策室

(9) 内子バイオマス発電所が稼働



内子町産の間伐材を利用した木質ペレットを燃料とするバイオマス発電所が完成し、稼働し始めました。発電所の発電設備は、小型高効率木質バイオマス熱電供給システムが6基と、温水バイナリー発電システムが1基で、年間811万kWの発電量を予定しています。この量は、内子町小田地区の全世帯分の電気使用量に匹敵する発電量です。

5月10日に起工式が、そして10月31日には竣工式が行われ、試験運転を経て本格運転が開始されます。発電された電力は、FIT制度により四国電力が全量買い取りすることとなっています。



- 写真上：集められた間伐材
- 写真左：小型高効率木質バイオマス熱電供給装置
- 写真右：温水バイナリー発電装置



事業実施者：内子バイオマス発電合同会社  
担当：産業振興課

#### (10) ペレットストーブの導入

内子町バイオマスタウン構想のもと、木質バイオマスの普及をめざし、ペレットストーブの導入を進めています。平成30年度に導入したのは、内子分庁の3階。産業振興課に農村支援センター、農業委員会のある待ち合いスペースに待望のペレットストーブが設置されました。木質バイオマス利用は林業振興の一つでもあり、ストーブの炎が林業振興の道を明るく照らしてくれることを期待します。なお、このストーブは、以前、大瀬保育園で使用されていたものを移設したものです。

担当：環境政策室



#### (11) 第9回緑のカーテンコンテスト

第9回緑のカーテンコンテストを開催しました。応募総数14件の内、最優秀賞1件、優秀賞2件、写真賞1件を選出しました。

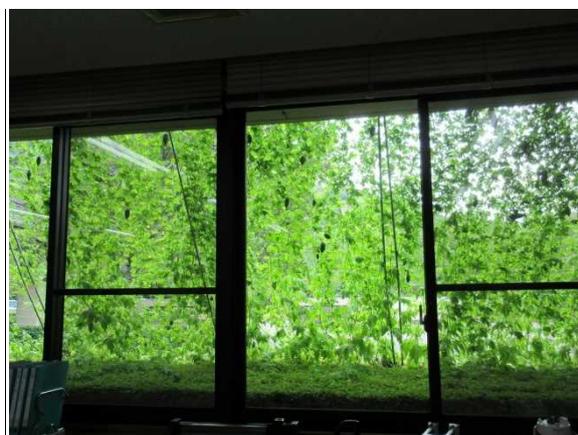
また、今年も環境NPOサン・ラブに協力頂き、17か所、1,000株のグリーンカーテン用の苗を無料配布しました。

●応募期間：7月2日～9月28日

●最優秀賞：床屋 一兼



●優秀賞：みどり苑



●優秀賞：石畳へき地保育園



●写真賞：増金アヤ子邸



担当：環境政策室

<環境教育分野>

(11) 平成 30 年度環境子ども会議

平成 31 年 2 月 13 日、五十崎自治センター共生館において、環境子ども会議が開催されました。今年度の会議では、内子町の身近な自然環境をトンボや水辺の生き物を通じて感じてもらうとともに、地球温暖化や気象の変化について生き物を通じて学習しようと、各地区や希望する学校単位でのトンボや水辺の生き物観察会を重ね、会議を迎えました。

子ども会議の前半は講話を行い、松山地方気象台の方をお招きし、天気予報や地球温暖化について学習しました。後半の体験型学習会では、町内外の様々な団体や企業の協力のもと、11 個のメニューに分かれて実施しました。

小学生向けの新たな体験学習メニューは 3 つありました。一つ目は、昨年、中学生の体験学習で行った T シャツマイバッグ作りを、小学生体験向けに実施しました。小学生がわかりやすい DVD を用意するなどの工夫をし、マイバッグ作りに臨みました。二つ目は、豆腐作り。これまでこんにゃく芋からこんにゃくを作る体験を行っていましたが、今年は地元でとれた大豆を原料にした豆腐を作り、またおからもおからドーナツにするなど、食品ロスをなくす工夫もしました。三つ目はツリークライミング。2 月という季節



がら、寒さや天候を気にしながらのメニュー作りでしたが、当日は晴天に恵まれ、子ども達は元気にツリークライミングにチャレンジしていました。

中学生の体験学習では、えひめ授業の達人認定第1号の村上圭司先生をお招きし、講師を務めていただきました。今回の“授業”を通じて、「真実を見よう」「正しい選択をしよう」とする心を育てることをめざし、風力発電装置での実験等をする中で意見交換をしながらエネルギー問題について考え、また、かつて繁栄していた生物がなぜ絶滅したのか、なぜ多くの種が絶滅の危機にあるのかを想像しながら、人間の活動と地球環境との関わりについて再考しました。真実を見て、正しい選択をすることが、地球環境保全のスタートにつながることを教えていただきました。



～環境子ども会議プログラム～

8:45 開会

9:00 講話

「天気予報のひみつ」松山地方気象台 現業班 田中信自さん

「地球温暖化って知っているかな？」松山地方気象台 調査官 橋口清さん

9:55 休憩

10:10 体験型学習会 ※名称と協力団体

1. 廃食用油石鹸作り ……NPO法人環境NPOサン・ラブ

2. 廃食用油キャンドル作り ……NPO法人環境NPOサン・ラブ

3. えひめAI-1を使った竹堆肥づくり&ペレットグリル体験  
……NPO法人環境NPOサン・ラブ、有限会社内藤鋼業

4. 豆腐作り ……程内こんにやく芋グループ

5. Tシャツマイバッグ作り ……ECO-ZUKI 内子

6. ツリークライミングに挑戦 ……有限会社井口農園

7. やまなみネイチャーランド ……内子町役場小田支所

8. 愛媛アースキッズ探検隊「知って体験、みんなの地球～虹の万華鏡を作って体験、光の不思議～」  
……愛媛県地球温暖化防止活動推進センター

9. 気にしてみよう、考えてみよう、水について～世界に一つだけの顕微鏡を作って微生物を観察しよう～  
……公益社団法人愛媛県浄化槽協会

10. 史上初！リサイクルで作るオリンピックメダル～パソコン解体と銅のキーホルダー作り～  
……金城産業株式会社

11. 人間の活動と地球環境を考える～風力発電装置を作ろう～（中学生対象）  
……講師 今治市立万乃小学校校長 村上圭司さん  
協力 NPO法人内子未来づくりネットワーク

11:20 取組を振り返って

11:30 閉会あいさつ



担当：学校教育課・環境政策室

(12) 第 15 回内子発環境会議の開催

第 15 回目となる内子発環境会議を 12 月 8 日に開催しました。今回は、豪雨災害などの異常気象が頻発する中、気候変動とその影響に対する適応をテーマにすることとし、講師に、松山地方気象台の橋口清さんと環境省の横山武典さんにお越しいただき、気候変動の現状や将来予測などについて学びました。

講師による講演の後、ワークショップを行いました。6つのグループにわかれ、講師から学んだことをもとにしながら、①身の回りで感じている気候変動、②将来の気候変動の影響、③現在または将来の最も心配となる気候変動の影響に対する適応策、の3点について意見を出し合い、グループでまとめました。気候変動による生き物の変化、農作物の変化といったことや、土地利用や保全、災害対策にごみ減量といった幅広い意見が出されました。

■ワークショップで出された適応策

適応策					
農林業	土木整備	災害対応	住まい	暮らし	情報
作物の新しい品種の勉強	池水力の向上を図る	防災訓練の実施（充実）。自主防災会の訓練に参加して対策を立てておく。災害発生時の自助・共助への取り組み・訓練。	安全な住環境の整備	暑さによる身体の変化に備える	自治会と連携
農作物品種改良	護岸をコンクリートにしない	災害マップ確認。危険箇所を掲示し、住民で確認しておく	家屋の北側へ窓を開く工事をするとともに南側の窓にアルミサッシを入れてサッシの移動によって南側の部屋に日陰を作る	プラスチックごみを少なく気をつける	近所とのつながりを大切に
稲の品種を高温に対応出来るものに	小田川の土砂を除き、河底を下げる	避難経路・避難場所の確認・見直し	エアコンの設定温度を考える	作業時の服装の工夫	情報収集を積極的に公的機関からの発信の必要性
植林の見直し	道路・川の整備等	食品・水の備蓄		健康管理・体力増進	防災無線の整備
照葉樹を育てる	常緑樹と落葉樹が混在した街路	早めの避難		水分補給	
森林保全					



事業実施者：第 15 回内子発環境会議実行委員会担当：環境政策室

### (13) 自然エネルギー学校の開催

平成31年2月23日、自然エネルギー学校を開催しました。今回のテーマは、本格稼働を目前に控えた「内子木質バイオマス発電所」の取組を例に、木質バイオマス利用を設定し、講師に、(株)森のエネルギー研究所 代表取締役 大場龍夫さんをお招きしたほか、内子町森林組合 小田支所長 大鍋直幸さん、内子バイオマス発電合同会社 内子発電所 所長 内藤昌典さんを講師に、内子バイオマス発電の取組について紹介していただきました。

大場さんからは、バイオマス利用の特徴は「つなげてみんなで協力していくこと」と話され、内子町のこれからは、バイオマスタウン構想の“森・畑・まちのプロジェクト”のそれぞれをつなげて考えていくことが重要で、それができると世界のモデルになれる、と話されました。また、これまでの木質バイオマス利用は、規模の大きなものが求められた結果、輸入材に頼ったバイオマス利用が進んできたが、これからは小規模分散・高効率・高付加価値化が進んでいき、内子のような発電事例が一つのモデルであることも話されました。

講演の後には、「内子バイオマス発電所」の施設見学も行い、内子町産の間伐材がペレットになり、ガス化発電されるまでの工程を見学しました。



担当：環境政策室

### 3 内子町環境基本計画

#### (1) 目標達成状況

内子町環境基本計画の目標達成状況を示します。町では計画の進捗状況を把握するため、内子らしい取り組みについて、個別政策に取り組む各部署が実施計画ごとにシートを作成しています。シートの詳細については、環境基本計画の実績として別途公表していますので省略し、その中の指数や数値目標についてまとめます。

さらに、平成30年度においても、引き続きエコオフィスに取り組む各部署において、環境基本計画の3つのプロジェクトに関連した独自目標を立て、目標に向かった取り組みを行いました。その目標及び評価、達成度についても掲載します。

#### <自然プロジェクト>

##### 1) 生物多様性の保全・創造

##### ①里地里山の保全

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
1	森林経営計画 面積 <b>500ha</b>	森林整備については、国や県・町の補助を活用し、町内6の林業事業体と自伐林家により、 <b>間伐406ha</b> 、皆伐4ha、植栽9ha、下刈92haが行われ、森林整備が進んでいる。また、森林経営計画では7件の計画が終了したものの、新たに7計画366haが加わるとともに、既存の経営計画についても計画森林の増加等に伴う変更が行われ、平成30年度末現在で47計画が動いている。計画は地域で指定する林班計画で策定しており、町内357林班のうち117林班で約1/3で計画が立てられている。 <b>計画面積は5,569ha</b> で前年比855haの増となり対象となる地域森林計画の森林面積18,855haに対し約3割について経営計画が策定されていることとなる。	○
2	間伐面積 <b>400ha</b>		○
3	集落協会への 交付金 <b>64,119千円</b>	<b>事業費実績額：72,345千円</b> 第4期対策の4年目になり、引き続き耕作放棄が起こることなく活動を続けている。耕作者の病気・高齢・死亡等の理由により途中で脱退する人が年々増えてきているが、集落内での賃借権の設定や認定農業者等が新たな管理農地を増すことで合計面積は前年度より若干増えている。耕作放棄地が発生しないよう当制度を活用して、農村景観保全に繋がる指導を行っている。	○
4	活動組織への 交付金 <b>26,594千円</b>	<b>事業費実績額：22,789千円</b> 現在3期対策の2年目となっており、地域で農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理をしなければという意識が向上してきている。また、地域で考え実践することで地域での話し合いが増え、世代間を超えた交流が出来る。しかし、地域の過疎化や高齢化等により、集落機能が低下し、共同活動等に支障をきたしている組織もあるとともに、書類整備等が煩雑なこともあり来年度から協定更新を3集落が断念した。今後も積極的な支援をしていく必要がある。	×

5	荒廃農地の再生 1ha	A分類（再生利用が可能な荒廃農地）に区分されている農地について、農地への再生が田 10,122 m <sup>2</sup> （7筆）、畑が 24,450 m <sup>2</sup> （35筆）で <b>合計 34,572 m<sup>2</sup>（42筆）</b> 解消された。また、B分類（再生利用が困難と見込まれる荒廃農地）への異動が、田 62,391 m <sup>2</sup> （82筆）、畑 261,233 m <sup>2</sup> （308筆） 計 323,624 m <sup>2</sup> （390筆）が増加し、高齢化、担い手不足、鳥獣害被害等により農地の荒廃が進んでいる現状にある。	○
---	-------------	---	---

### ②生き物の調査と生息環境の保全・創造

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
6	林業整備事業 整備路線数 7路線 事業費 220,000千円	<b>事業費実績額：634,126千円</b> 林道整備については、予定の <b>6路線</b> し生産コストの軽減と輸送の効率化を進めるとともに、県営治山事業についても予定の <b>11</b>	○
7	県営治山事業 8地区	<b>地区</b> を実施し森林整備を進め、防災機能の向上を図った。	○
8	在来種調査 2種類	調査活動を <b>ホタル及びトンボ</b> で実施した。また観察会も実施	○
9	在来種・外来種情報などの広報活動 2回	し、 <b>ホームページ</b> を通じてお知らせをしたり、観察会の報告を <b>広報うちこ</b> に掲載したりした。	○
10	自然観察会 3回以上	平成 30 年度 自然観察会 <b>4回</b> 実施	○
11	柿守会の取り組み支援 1回以上	・ <b>ホタル観察会</b> ・水中生物観察会（はらっぱ基金） ・野鳥観察会（はらっぱ基金） ・ヤゴ観察会	○
12	水辺の生き物をテーマにした学習会・フィールドワーク 1回	平成 28 年度に立石自治会ホタルまつりを開催した以降、現在は <b>実績なし</b> 。	×
13	カワナ養殖実験 1回	平成 29 年度の実験をもって、養殖・放流事業を終了している。	○

### ③小田深山の自然環境保全・活用

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
14	小田深山保全審議会の開催 2回	7月からミカタスイッチ(株)を指定管理者として小田深山溪谷関連施設の維持管理と清掃を行うとともに、住民グループ「 <b>せんの森クラブ</b> 」（会員 30名）を中心として、小田深山溪谷沿いの清掃活動を行った。 ・植樹 2回 ・清掃活動（県道沿い） 11回 ・清掃活動（溪谷内） 12回 <b>計 25回</b>	×
15	住民参加による保全活動 25回	小田深山で採れた広葉樹の実から育てた苗 100本を植栽した。 内子町山並み保全活用事業計画の第3期行動計画を基に、活動を行ってきた。	○
16	内子の樹木、絶滅危惧種等の育成苗畑 設置、プレ運営	新深山荘の建設計画に伴い、水質汚染対策等を調査研究した。 <b>保全審議会の開催は無し</b> 。	○

2) 自然資源や景観を活かした地域づくり

①地域の資源を活用したブランドづくり

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
17	土壌診断の徹底 <b>600 件</b>	・内子町特別栽培農産物等認証制度の実施 130 件 ・エコファーマーの育成 19 戸	○
18	安全農業講習会の開催 <b>6 回</b>	・土壌診断の徹底 <b>600 件</b> ・環境保全型農業講習会 <b>8 回</b> ・残留農薬の分析 79 件 ・トレーサビリティの拡大 からり出荷全農家	○

②環境を活かした観光や人材の受け入れ

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
19	平成 31 年度までにツアーメニューを <b>1 種類以上</b> 開発するため、窓口に関する協議を行う。	観光窓口を継続した <b>協議を行った</b> 。費用やガイドの育成など、障害があるが、ツアー開発に向け、継続して協議を行っていく。	○
20	宿泊・体験者数 <b>8,000 万人</b> を目指す (H25 実績約 7,200 人)	宿泊者数は、豪雨災害の影響を大きく受けて前年から 2,000 人の減少し <b>5,478 人</b> だったが、農泊推進事業での体験の見直しにより体験者数は若干増加した。農村の景観や文化資源を活かした体験型ツーリズムの定着により宿泊客の増加にもつなげたい。	×
21	内子ねき歩きのコース数 <b>10 コース</b> 目開拓	<b>9 コース</b> は完了。	×
22	内子ねき歩きの参加者数 <b>350 人</b>	32 回 <b>161 人</b> を案内した。ガイド育成事業を実施。	×
23	観光客数 <b>115 万人</b> を目指す (H25 実績 110 万人)	<b>1,076,087 人</b> (平成 30 年次実績。)	△
24	同年度宿泊者数の割合 <b>2%</b> (H25 実績約 1%) )		○
25	エリアと時期を限定した HP リスティング広告の実施 アクセス数 <b>前年度比 10%増</b> (平成 26 年度実績 <b>127,453</b> アクセス)	宿泊者数割合 <b>約 4%</b> アクセスは前年比より <b>下がった</b> 。	×

26	小田深山活動の参加者数 <b>6,000人</b>	<p>小田深山で開催した散策ツアーやウォークなど5回の開催で156名の参加があり、各種研修会の開催や学習型イベント、自然保護活動には、延べ5日間で310名の参加があった。また、平成30年度は、ワンツーツリーフォレストの開催に2日間で約700人、サイクリングイベントに20人の参加もあった。深山荘の休館後は、集客の把握が難しくなっているが、夏休みや紅葉時期には多くの来訪者があり、推計で<b>7,800人</b>ほどの来訪者があると思われる、総計では約9,000人の集客につながっていると思われる。</p> <p>平成30年7月からは、ミカタスイッチ(株)を指定管理者として小田深山溪谷関連施設の維持管理を行っており、各種団体とも協力しながら、来訪者への対応を行っていくものとする。</p>	○
----	------------------------------	--	---

### ③環境活動を推進する経済システムの検討

	指数・数値目標	取組結果	目標達成状況
27	木質バイオマス等の活用 (木こり市場プロジェクトにおける木材取引量) <b>500t</b>	<p>木こり市場事業の平成30年度の目標集荷量500t対し、18名、延べ223台で<b>532.17t</b>の受入ができた。出荷した材は(有)内藤鋼業に売却し木質ペレット製造用材として売却した。</p> <p>また、木質ペレット5,700t/年を燃料として発電する内子バイオマス発電所が昨年10月に竣工し、ペレット製造のため未利用材約8,000tを森林組合を通じ林業事業体から内藤鋼業に供給し、不足分は小田原木市場から低質材を購入している。</p>	○

### ④景観や生態系に配慮した環境整備

	指数・数値目標	取組結果	目標達成状況
28	景観まちづくりフォーラムの開催 <b>1回</b>	10月に長年放置されていた国道56号沿いの大型屋外広告物を略式代執行で撤去。地域の要望に応えるとともに、沿道の景観整備と通行上の視界の確保を図った。また、同じく10月に町並・地域振興課と協力して「 <b>歴史まちづくりシンポジウム－地域のミライー</b> 」を開催。平成30年度の景観まちづくりシンポジウムに代えた。さらに3月には、景観をテーマに「 <b>愛媛大学COC公開講座in内子</b> 」を開催し、 <b>町民の啓発</b> を図った。	○
29	景観まちづくりや、優良事例、景観協力企業など紹介する広報活動 <b>1回</b>	景観まちづくり評価委員会を開催し、景観計画重点区域内の届出について審議した。	○
30	ふれあい事業整備計画の <b>実施</b>	小田川河川敷整備計画に基づき、堤防沿いのジョギング・散歩コースを整備しはじめた。また内子町いかざき小田川はらっぱ委員会において、若鮎広場、野っばらゾーンなどの整備区間の修景、再生について調査検討をおこなった。	○

31	空き家活用モデル事業の 実施	<p>数値目標の上芳我邸有料入館者数は、平成 30 年度は <b>15,385 人</b> で昨年度を大きく下回りました。原因としては、7 月豪雨の後、約 2 ヶ月程度観光客が激減したことが挙げられます。一方で地元小・中・高校生の学習目的での来館は増えており（免除対応）、30 年度より本格始動したワークショップの開催も好評です。31 年度も引き続き資料館としての充実を図り、情報発信をしながら目標達成を目指したいと考えます。</p> <p>空き家については、空き家所有者の意向調査を経て順次修理事業を進めており、空き家の解消に向けた環境整備を行っているところです。</p>	○
32	木蠟資料館上芳我邸の 有料入館者数 <b>30,000 人</b>		×

### 3) 健全な水環境の保全と小田川の利用

#### ①生活排水対策

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
33	HP内のえひめAI-1 特設ページの内 容充実、平成 31 年度までに事例 紹介 <b>3 事例以上</b>	ホームページ内での充実は図れなかった。	×
34	環境関連イベント時にえひめ AI-1 の啓発 <b>1 回以上</b>	イベント時に啓発できなかった。	×
35	下水道水洗化普及率 <b>87.4%</b>	<p>下水道の水洗化率は、<b>85.6%</b> で、昨年より 0.6% の伸びであった。また、合併処理浄化槽の設置基数は、<b>31 基</b> を設置し、そのうち単独槽や汲取りからの転換した合併処理浄化槽は、7 基であった。</p>	△
36	合併処理浄化槽設置基数 <b>60 基</b>		×

#### ②源流と河川の環境保全

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
37	町内河川美化一斉 清掃に関する広報 自治会連絡会及び 広報 <b>1 回</b>	<p>町内美化清掃を実施。今年度は、<b>広報うちこ 8 月号</b> に「エコ好き内子」の実施した郷の谷川のごみ拾い「アースデイ内子」の記事を掲載した。平成 30 年度の実績 アースデイ内子ポイ捨て・不法投棄ごみ約 90kg 収集。</p> <p>町内一斉美化清掃 空き缶だけで 50kg 以上収集。</p> <p>肱川流域河川清掃や簡易水質検査は、7 月豪雨の影響で今年度は実施しなかった。</p>	○
38	肱川流域自治体と の連携 <b>1 回</b>		△

③水を利用した地域づくり

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
39	水と自然、景観への関心を高める学習会・フィールドワークの実施 <b>3回</b>	青少年活動では、内子ふれあいキャンプを通して川と水、自然と景観への関心を高めた。（段ボールカヌー大会については西日本豪雨の影響により中止） 自治センター管内自治会連絡会における先進地視察は鹿児島県の柳谷公民館で実施した。土着菌堆肥による家畜のふん尿からくる悪臭の解消に成功され、逆にその堆肥で栽培したさつまいもを材料に芋焼酎「やねだん」の商品化に結び付けられた。今後の環境と景観づくり、そして地域コミュニティ活動におけるヒントを得た研修となった。	△

<暮らしプロジェクト>

1) ごみの減量

①廃棄物の減量

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
1	ごみ減量検討委員会の <b>継続的な開催</b>	30年度は「5R推進委員会」を <b>3回開催</b> し、広く町民の声を集約することで、ごみ減量をはじめ5Rの推進に繋げていく取組を行った。また、アースデイ内子を実施し一般の方と郷の谷川及び小田川（知清河原～高速道路交差付近）周辺のごみ拾いを行った。ごみ分別の資料を作成し希望する区に配布した。	○
2	未回収ごみの分類による分かりやすい資料の <b>作成</b>		○
3	平成31年までごみ発生量を <b>626g/人・日以下</b> にする	改定された一般廃棄物処理基本計画の中で、5Rの推進をより具体的に位置付け、食品ロス削減についても、愛媛県食品ロス削減推進協議会が発足したことに伴い県・各市町と情報共有による連携した取り組みを進めた。今後は、ごみ排出量削減のため、身近な機会を捉え、30・10運動を呼びかけ、食べ残しゼロを目指した取り組みの浸透を図ると共に、レジ袋辞退などの企業や町民主体のごみ減量に向けた取り組みも検討していく。エコバッグ運動を展開しレジ袋辞退率の向上を図った。	△
4	特色あるリサイクル品によるフリーマーケットの <b>定期開催を企画</b>		×
5	レジ袋辞退率（大型店舗の辞退率より推計） <b>40%</b> をめざす		△

②廃棄物の適正処理

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
6	ポイ捨て等の禁止について広報します <b>年1回以上</b>	今年度は、 <b>広報うちこ8月号</b> にマイクロプラスチックの問題を取り上げたポイ捨て禁止の記事と一緒に掲載した。ホームページは作成できなかった。	○
7	パトロールの実施 <b>月1回以上</b>	月1回以上のパトロールを行った。	○

## 2) 資源の地域内循環

### ①地産地消の推進（農の循環）

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
8	学校における地産地消の推進 <b>地産地消率 48%</b>	30 年度地産地消 内子学校給食センター <b>55%</b> （からり、かつ盛青果部より仕入れ） 小田学校給食センター <b>71%</b> （立石野菜組合から仕入れ）	○
9	民間事業者における地産地消の推進 <b>地産地消率 10%</b>		△

### ②町産材の利活用の拡大（木の循環）

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
10	内子町産材利用住宅補助目標数 <b>10 件</b>	町産材利用木造住宅の補助については、町内建築業者による施工で景観や面積などの要件があるが、ニーズの多様化などにより、平成 29 年度より屋根の指定色の要件はそのまま、屋根材を日本瓦のみから、他の屋根材でも対象となるよう要件緩和を行い、町産材のさらなる利用促進を図ってきたところです。平成 30 年度は目標の 10 件に対し、昨年比 1 件増の <b>9 件</b> の交付があり、少しずつではあるが制度利用が広がっている。 林業 6 次化については、小規模木質バイオマス発電事業として内子バイオマス発電所が完成し、発電に必要な木質ペレット製造のため未利用間伐材等の原木ニーズが高まり、12,000 m <sup>3</sup> /年の活用が見込まれ、原木市場への出荷とは別に、未利用間伐材約 8,000 m <sup>3</sup> が搬出された。	△

### ③バイオマス利活用の拡大

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
11	木質ペレットの製造量 <b>2,100t</b>	ペレットストーブについては、産業振興課に設置され、使用されるようになった。平成 30 年度木質ペレット実績は、製造量が <b>926t</b> 、利用量が <b>1,000t</b> 、町内販売量は <b>850t</b> であった。えひめ AI-1 については、農業利用での拡大をめざし、えひめ AI-1 を利用した竹堆肥による実証試験を継続して実施中。BDF については、平成 30 年度に新たに導入された設備等はなかった。平成 30 年度 製造量 <b>16,562L</b> 、利用量 <b>13,800L</b>	×
12	木質ペレットの利用量 <b>2,100 t</b> 内町内利用量 <b>800t</b>		△
13	BDF の製造量 <b>19,000 リットル</b>		×
14	BDF の利用量 <b>19,000 リットル</b>		×

15	6種類の作物で検証を行う	町民の方3名に協力をいただき実証を行った。平成30年度はとうもろこし、きゅうり、ブロッコリー、トマトの4種類を検証した。とうもろこし・きゅうりは甘味が出た、ブロッコリーは玉太りが良かった、トマトは糖度が少し上昇するなどの効果を得られた。平成31年度は愛媛県とも連携し実証実験を進めていく。	△
16	平成31年度までに保育園等にペレットストーブを3台設置する	平成30年度未設置 安全に利用できるよう努めている。	×
17	ペレットの消費量 800kg	平成30年度利用実績 950kg	○

### 3) 温暖化対策とエネルギーの地域内循環

#### ①再生可能エネルギーの普及

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
18	平成31年度までに公共施設等の電気消費量の5%を再生可能エネルギーによるものとする	小水力発電については、費用対効果の面から厳しいといった調査結果を受け、地域主導による地域内での資源循環という視点から、マイクロ発電規模(50w~200w)のモデル施設を設置する地元発のアイデアについて検討したが、地権者の同意が得られない事情等もあって具体的には進んでいない。今後は、再生可能エネルギー全般について、町民を対象にした学習機会を設け、住民主導型の市民発電事業などの事例も参考に検討を進めたい。	△
19	平成31年度までに太陽光発電及び小水力発電のモデル地域をそれぞれ1カ所以上作る		△
20	平成31年度までに太陽光発電及び小水力発電に取り組む実施主体を3箇所以上作る		△

#### ②省エネルギーの普及

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
21	緑のカーテンコンテスト 応募件数 25件	平成30年度は応募件数が14件であった。苗の無料配布をNPO法人 環境NPO サン・ラブの協力により行っているが、苗を持って帰る方のコンテスト応募率が低い。そのため、実際緑のカーテンを制作しているにも関わらずコンテストへ応募していない作品が町内に多数存在する。持ち帰りの際には一言声をかけてもらい応募の周知を図ったが上手くいかなかった。	×
22	ライトダウンキャンペーンの実施 2回以上	例年のクールビズ、クールシェア、ウォームビズ、ウォームシェアによる啓発活動を行った。うちエコ診断会を実施し、省エネの普及を図った。	○
23	省エネキャンペーンの実施 1回		○

24	省エネナビモニターを <b>募集</b> し、エコライフ実践の <b>サポート</b> を行う	アースデイ・ライトダウン、ムーンナイト SHIKOKU の計 2 回にわたってライトダウンを行った。うちエコ診断会を実施した。省エネナビモニターの劣化により募集はできなかった。	△
----	---	--	---

### ③適応策の検討

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
25	適応策をテーマにした職員研修会の開催及び内子町の潜在的適応策の拾い出し	愛媛県の地球温暖化対策担当職員を講師に招き、職員を対象とした環境学習会を開催した。また、環境省及び気象庁の地球温暖化対策担当職員を講師に招き、町民を対象とした内子発環境会議を開催した。両会では、ワークショップを行い、気候変動の影響と適応について意見交換をした。	○
26	平成 31 年度までに適応策の策定を <b>検討</b> する		○

### <環境教育プロジェクト>

#### 1) 子どもから大人まで切れ目ない学習活動の推進

##### ①子どもの環境学習（内子独自の学びの場づくり）

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
1	町内小中学校を対象とした環境子ども会議の開催 <b>1 回</b>	内子町環境政策室と共同で、H31.2.13 に環境子ども会議を五十崎共生館で開催し、町内小中学校から 242 人が参加した。環境子ども会議では、気象庁松山気象台調査官の橋口清先生を講師に地球温暖化や気象について全体講演を行って頂いた。温暖化と気象の関係や気象予報についての基礎など普段学習することができない貴重な学習をすることができた。また、分科会では、11 のブースに分かれ、身近な題材を用いた体験型学習を通して環境学習を行った。	○
2	町内の小学 5 年生を対象にした小田深山宿泊体験を <b>毎年開催</b> し、環境保全について体験学習を実施する	H30.8.28～8.31 の 4 日間において、内子連合、五十崎連合、大瀬・小田連合の、3 団体に分かれて 1 泊 2 日で小田深山宿泊研修を町内の小学校 5 年生 110 人が行った。平成 29 年度からは、研修の拠点を深山荘から獅子越荘に移して実施している。子どもたちは、この研修を通じて小田深山の自然の豊かさを体感するとともに、ふるさと内子の良さを学習した。	○
3	子どもの環境学習会を開催する <b>10 回</b>	学習会やクリーン活動を通し、環境に対する理解を深める活動を積極的に行った。 昨年に比べ開催回数は減少したが、目標とする回数は行えた。 平成 30 年度実績 <b>10 回</b>	○

4	エコセミナーの実施 14回以上	セミナー <b>12回</b> 開催。延 216 人の参加であった。夏のエコキャンプを屋島少年自然の家で実施した際は、「火起こし体験（マイギリ（舞錐）式）」について職員に指導頂き、火の扱いの大切さを学んだ。いずれのプログラムにおいても、子どもたちは興味深く学習しており、参加者からは郷土を愛する心、自然環境を守る必要性等が感想文等に寄せられた。	△
---	--------------------	--	---

②大人の環境学習（実践に結び付く環境学習）

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
5	体験型学習会の開催 2回	体験型学習会については、平成 29 年度から実施している内子未来づくりネットワークと協働での観察会を実施し、平成 30 年度は <b>7回</b> の実施となった。	○
6	広報へ暮らしのエコロジーを掲載 12回	暮らしのエコロジーについては、 <b>毎月</b> 広報に掲載した。	○
7	町内 41 自治会の取り組み率 84%	本年度は 41 自治会中 32 自治会から 47 事業について地域づくり事業費補助金申請があり、そのうち環境活動やコミュニティビジネスに関する申請は 25 自治会・32 事業であった。自治会の取り組み率は <b>約 61%</b> である。 事業数・事業費実績は少しずつ増加している。また、巨木や桜など地域にある自然資源を生かしていく取り組みも目立つ。これまで同様身近にできることから取り組んでいただけるよう推進したい。	△
8	各自治会で <b>年1度</b> の学習会の実施	地域づくり事業における花の植栽、ぼかしづくりなどを中心とした環境整備事業を全自治会が取り組んでいる。（内子自治センターとしての実績額は 0）	○
9	サロンでの環境学習会の実施 10箇所以上	各サロンに環境関係の学習を提案したが、学習会実施には至らなかった。ただし、管内の論田地区からゴミの分別等について問合せがあったので、来年度のサロンにてゴミについての学習会を企画する予定。その他のサロンでも随時呼びかけをおこなっていく。	×
10	各自治会で <b>年1回程度</b> の学習会の実施	大瀬自治会では、地域づくり事業による花いっぱい運動など、地域の環境美化を行いながら、小田川河川清掃等に力を入れ、住みよい地域づくりを目指し住民意識の向上が図られている。川登自治会では川まつり筏流しイベントで子どもたちの水辺の生き物観察会を実施。村前自治会では、ホテル観賞会。池田自治会では大瀬自治センターと共催で「自然観察会」等を行い、自然環境学習会を開催した。	○
11	小田自治センターだよりへの環境学習帳掲載 年 2回以上	小田自治センターだよりに環境学習に関連する記事を 3 回掲載した。 6月号 緑のカーテン 9月号 環境学習帳 CO2 排出削減編 2月号 環境学習帳 ウォームシェアのススメ	○

12	管内自治会内で年1箇所の環境学習会の実施	中川自治会管内では放置林整備と景観保全を目的に伐採した木材や竹材を利用した炭焼きの継承活動を行っている。今後はふるさと学習等に発展させていく計画である。	○
----	----------------------	--	---

### ③様々な学習会と連動した環境学習（ESD）

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
13	ESDの視点を取り入れた学習会 1回以上	内子町 ESD コーディネーターに1名を委嘱し、自然観察や木工体験、職場インタビューや平和学習などの学習活動を展開した。	○
14	青少年海外派遣事業で得た、先進的な取り組みを紹介する機会を作る（報告会）	H30年11月15日～11月24日に実施した第24回内子町青少年海外派遣事業では、10名の町内中学生が環境保全先進国であるドイツ・ローテンブルク市やノルウエー・オスロを訪問した。 ドイツではホームステイ先や街中でのゴミ分別方法、スーパーマーケットでのエコに配慮した取り組み、デポジットシステムなどの身近なエコについて学んだ。1月18日には報告会を実施。報告会では、派遣生が実際に調べた環境保全の取り組みなどの発表を行った。当日は保護者や学校関係者だけでなく、訪問メンバーの友人や一般町民など、46名の参加があった。 ※事業費は共催である（公財）内子町国際交流協会が支出。	○
15	広報やFacebookなどを通じて青少年海外派遣事業への参加を呼びかける		○

## 2) 地域・自治会の環境活動の推進

### ①環境モデル地域づくり

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
16	支援する自治会等数 4団体以上	自治会や団体等の集まりでゴミ分別の学習会を平成30年度は3回行った。ゴミ収集場所に掲示する掲示物等を自治会や区の要望に応じて作成した。	○

### ②コミュニティビジネスの展開

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
17	自治会によるコミュニティビジネスの学習会支援 2回	コミュニティビジネスへの展開には至っていないが、竹たい肥の製造に関し、学習支援を行った。また、地域の自然を見直す学習会を3つの地域に呼びかけて実施した。	○

18	平成 31 年までに小水力発電を 1 か所以上導入するための <b>支援を行う</b>	少水力発電に関しては、事業性が高いものは、導入困難。	△
19	自治会での放置竹林の間伐、竹炭の製造の実施 <b>1 回</b>	実施できなかった。	×
20	<b>年 1 回</b> のひまわり祭りでジビエ料理を提供するとともに、料理の研究を継続する	ひまわり祭りでジビエ料理を提供した。また、重松自治会でひまわりを栽培し、種から食用油を搾取する取り組みを行った。	○

### 3) ネットワークづくり

指数・数値目標		取組結果	目標達成状況
21	内子発環境会議の開催 <b>参加者 55 名</b>	内子発環境会議を 12 月 8 日に実施した。参加者は 40 名であった。開催形式は実行委員会形式を継続して実施しており、今後会議開催に向けた盛り上がりをつくる必要がある。	△
22	うちこ未来づくり協議会の開催 <b>2 回</b>	内子未来づくり協議会については、この 5 年間、未開催のままである。環境基本計画の後期計画に向け、協議会そのものについて見直す必要がある。	×

#### (2) 目標達成状況のまとめ

##### 平成 30 年度 まとめ

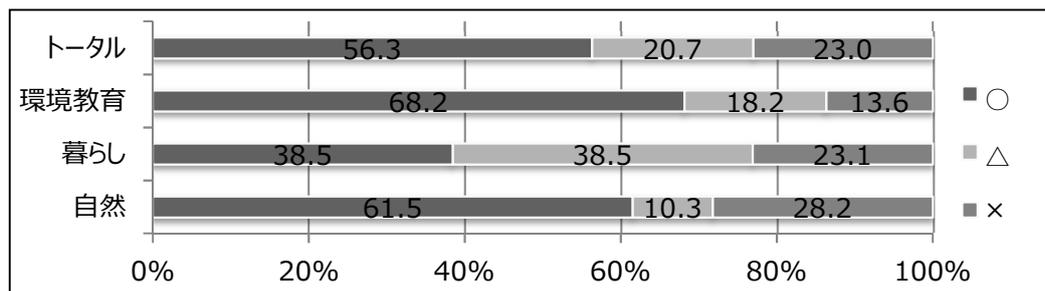
	○	△	×	小計	-	合計
自然	24	4	11	<b>39</b>	0	39
暮らし	10	10	6	<b>26</b>	0	26
環境教育	15	4	3	<b>22</b>	0	22
トータル	49	18	20	<b>87</b>	0	87

##### 【凡例】

- ： 計画のように実施できている。
- △： 一部はできている。
- ×

##### 平 30 年度 実施率 (%)

	○	△	×	計
自然	61.5	10.3	28.2	100.0
暮らし	38.5	38.5	23.1	100.0
環境教育	68.2	18.2	13.6	100.0
トータル	<b>56.3</b>	20.7	23.0	100.0



(3) 環境基本計画3つのプロジェクトに関する独自目標と達成度

<目標数と達成度>

	目標数	達成度 (%)
自然	91	90.8
暮らし	99	90.2
環境教育	86	89.2
合計	276	90.1

<部署別独自目標と達成度>

部署名	分類	目標	各部署の自己評価	達成度 (%)
総務課	自然	すべての内子町分譲宅地購入希望者に対して、内子町の景観に関する取り組みを紹介する。	購入相談1件に対して、住宅建築の際の景観配慮の申し合わせについて説明を行った。	100
	暮らし	区長便の梱包には必ずコピー用紙包装紙などの使用済み用紙を利用する。	区長便発送12か月すべての回で、コピー用紙包装紙を再利用した。	100
	環境教育	すべての内子町地区集会所の指定管理者に対して、環境に配慮した取り組みに関する啓発を行う。	地区集会所指定管理者107件すべての方に、エネルギー調査依頼と合わせて環境配慮についての文書を送付した。	100
会計課	自然	2階フロアのトイレ掃除当番と湯沸かし室当番の際には、必ずえひめA1を使用する。	2階フロアのトイレ掃除当番と湯沸かし室当番の際には、必ずえひめA1を使用するよう努めた。	90
	暮らし	買い物の際には、週1回以上マイバックを持参することとし、家族等にも実践してもらうよう啓発する。	買い物の際には、週1回以上マイバックを持参した。 家族にもマイバックを利用するように話をし、実践してもらった。	90
	環境教育	常駐業者である指定金融機関（愛媛たいき農協）の職員にも、年間を通して環境配慮の取り組みを実践していただく。	常駐業者である指定金融機関（愛媛たいき農協）の職員にも、年間を通して環境配慮の取り組みを実践していただいた。	100
住民課	自然	地域の環境活動へ少なくとも1回以上参加して、職員参加率100%を目指します。	1回以上、地域の環境活動へ参加した。	100
	暮らし	昼食を買いに行く際の買い物袋持参率を80%以上にします。	買い物袋を持参するよう職場に呼びかけ、取り組んだ。	80
	環境教育	職員研修に年1回以上参加し、職員の全体的なレベルアップを図ります。	研修会に参加し、環境教育に取り組んだ。	80

うちこ福祉館	自然	館前に設置してある「えひめA I-1」について利用促進のため、週1回トイレ掃除には「えひめA I-1」を使用する。	週1回以上は「えひめA I-1」を活用した。	100
	暮らし	室内の温度を下げて電気使用量を減らすため、機能回復訓練室南側窓(7.5m)において「緑のカーテン」事業を実施する。	実施した。実施中は、網戸で対応できる時間帯もあり、有効であった。	100
	暮らし	わいわい喫茶で出た使用済みのコーヒー豆は、すべて肥料として使用する。	全12回において、すべて肥料として活用し、目標を達成できた。	100
	暮らし	健康講座やわいわい喫茶等の調理時にでた使用済みの油は、すべてNPO サン・ラブに回収してもらい、リサイクルに活用する。	福祉館の調理室で発生した使用済みの油はすべて回収してもらったので、目標を達成できた。	100
	環境教育	館の貸し館利用者に対して、環境配慮チェックシートへの記入を100%していただくよう、指導・確認を徹底する。	利用者が記入を忘れていた場合は個別に連絡を取って確認等も行うなど、目標を達成できた。	100
	環境教育	城廻自治会の花いっぱい運動に協力し、年2回館周辺のプランターに植栽する。	例年継続実施しており、本年度も実施した。	100
参川福祉館	自然	調理室やトイレ清掃の際には月2回「えひめA I-1」を使用する。また、館内及び館外計2か所の掲示板にパンフレットを掲示するとともに、「えひめA I-1」を玄関に常備し、来館者及び周辺地域住民にもさらなる利用を呼び掛ける。	調理室やトイレ清掃の際には月2回以上「えひめA I-1」を使用した。館内と館外の2か所にパンフレットを掲示するとともに「えひめA I-1」を玄関に常備し、来館者及び周辺地域住民に利用を呼び掛けた。	100
	暮らし	健康教室などの調理実習で出た生ごみは、全てプランターで堆肥化しごみの減量化に努める。	調理実習等で出た生ごみは、全てプランターで堆肥化しごみの減量化に努めた。	100
	暮らし	室温を下げて電気使用量の低減を図るため、事務室窓全部を対象に「緑のカーテン」を2m設置する。来館者及び周辺地域住民にも呼び掛ける。	電気使用量の低減を図るため、事務室窓全部を対象に「緑のカーテン」を2m設置した。また、来館者及び周辺地域住民にも呼び掛けた。	100
	環境教育	館掲示板(大会議室窓ガラス)に、環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者及び周辺住民に啓発する。	館掲示板(大会議室窓ガラス)に、環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者及び周辺住民に対し啓発を行った。	100
	環境教育	館利用団体への説明会、健康教室、サロン、子ども会活動の際に各1回、内子町及び参川福祉館の環境に関する取り組み等について説明する。	館利用団体への説明会、健康教室、サロン、子ども会活動等で1回以上内子町及び参川福祉館の環境に関する取り組みについて説明した。	100
税務課	自然	所属する自治会(地域づくり担当職員の担当自治会も含む)の地域づくり計画書に掲げる自然環境保全活動や自然災害防災活動の参加率を100%にします。	税務課の職員全員が活動に参加することができた。	100
	暮らし	納税通知書の封筒に啓発やお知らせの内容を直接印刷するなど、用紙の使用量を継続して減らすように工夫する。	納税通知書の発送の際に、お知らせのチラシを両面印刷にするなど工夫した。	100
	暮らし	裏面の再利用が可能な用紙は、必ず裏面を印刷・メモ用紙等に利用し、用紙の節約に努める。	両面コピーの徹底など、用紙の節約に努めた。	100
	環境教育	町内小中学校で開催する租税教室のすべてにおいて、「地球温暖化対策のための税(通称:環境税)」が設けられ、環境保護に役立てられている事実を児童・生徒に伝えます。	30年度実施の租税教室においてすべての会(中学校2校、小学校4校)で実施できた。	100

保健福祉課	自然	車を利用する場合の、普通自動車の利用量を全体の15%以下にする。	保健福祉課管轄の軽自動車3台をメインに使った為に普通自動車の利用は全体の15%未満であった。	80
	暮らし	年間を通じて機密文書を破棄するとき、焼却を減らしてシュレッダー処理にする。古紙搬出作業までに焼却分をシュレッダーする。	シュレッダーを主に利用する事ができた。	80
	環境教育	掲示期間を過ぎたポスターは全て保育園、児童館などで再利用してもらう。	保育園、児童館で子ども達のために有効活用できた。	80
地域医療健・康増進センター	自然	湯沸かし室（週1回）、調理室（使用时）の清掃の際に「えひめA1」を利用する。	おおよそ徹底できた。	70
	自然	コピー機のトレイに裏面使用可能な用紙を常時セットし、使用する。	コピー機のトレイに裏面使用可能な用紙を常時セットし、裏紙利用を徹底できた。	100
	暮らし	健診の通知をする封筒や健康教育の資料に独自のエコイラストを必ず使用する。	実施できた。	100
	環境教育	2か月児育児相談にて内子町環境基本計画に関する資料を必ず配布し、説明する。	実施できた。	100
建設デザイン課	自然	生態系に配慮した河川環境の整備を自治体などの民間団体と協働して年1回以上行うとともに、近自然型工法を推進することで、環境に配慮した工事を行う。	自治会や各種団体と連携して、ミニ小田川と郷の谷川にて除草等の清掃活動を行った（年2回）。また「はらっぱ基金」を活用し小田川河原にある櫃の保全・保護を実施、他にも観察学習として小田川生物調査を行うなど、環境に関して理解を深める活動を行った。	100
	暮らし	内子町産の木材使用を促進するため、2施設の公共建築物の木造化を推進する。	建築物の更新に関して、内子町産材を使用した木造建家の建築を行った。（吉野川自治会館、南山自治会館、五十崎3部消防詰所）	100
	環境教育	新規の上下水道に係わる手続きの際には、すべてのお客様に対して「えひめAI-1」の効果を紹介し、利用の促進及び消費量の増加を図る。また合併浄化槽を新設する場合に対しても同様とする。	上下水道及び合併浄化槽の手続きの際に、「えひめAI-1」の説明を実施した。（実施件数：31件）	100
環境政策室	自然	他の部署の自然プロジェクトを1つ以上サポートする。	小田支所の「小田深山ふれあいの森」の緑化推進（年1回広葉樹植栽の実施）をサポートした。	100
	自然	住民団体等と共同し、生き物観察会や保全を2回以上実施する。	うちみづネットと協力し、生き物観察会を7回、保全活動を1回実施した。	100
	暮らし	他の部署の暮らしプロジェクトを1つ以上サポートする。	内子保育園のエコ見回り隊の実施について、園外の見回り隊についてサポートを行った。	100
	暮らし	ごみ処理に関する資料を作成し、年度末までに1回町民に配布する。（ゴミ収集日程表に添付する）	12月の回覧でゴミ収集日程表と一緒に全世帯へ配布した。	100
	環境教育	他の部署の環境教育プロジェクトを1つ以上サポートする。	7つの保育園すべてにおいて、エコ学習会の講師を務めたり、資料を提供したり、講師の紹介を行ったりした。	100

環境	環境教育	自治会や環境団体が参加するうちこ発環境会議を年1回開催する。	12/8 うちこ発環境会議を開催した。気候変動と適応策について講演及びグループワークを行った。	100
内子総合窓口センター	自然	NPO法人サン・ラブさん製造の「えひめAI-1」を年間50本以上住民に配り、環境保全に努めます。	定期的に補充していただき、多くの住民に使用していただいております。	100
	自然	一昨年度分庁駐車場のカイツカイブキを伐採し、しだれ桜を植栽したため、年間を通じてその育成に努力する。	年間を通じ剪定等を行い育成を継続してました。	100
	暮らし	年2回以上内子高校生及び身体障害者更生会と協力し分庁及び周辺の美化活動を行います。	年2回左記団体と協力し庁舎敷地内及び周辺の美化活動を実施しました。	100
	暮らし	NPO法人サン・ラブさんが育てたゴーヤ等の苗及び収穫していた朝顔の苗を使用して、緑のカーテンを5メートル以上設置します。	町民の方に多数持って帰ってもらったため苗を確保できず設置できませんでした。	0
	暮らし	NPO法人サン・ラブさんの協力のもと、苗(ゴーヤ等)を住民に200株以上配り、緑のカーテン事業を広く普及させることに貢献します。	今年度もNPO法人サン・ラブさんが育てたゴーヤ・ふうせんかずら・夕顔を合わせて目標以上に配付出来ました。	100
	環境教育	毎日、水道メーターをチェックし、漏水していないかどうかのチェックをし、節水に心掛けます。	毎朝チェックしました。	100
	環境教育	転入の際の説明資料にゴミの出し方・分別方法を必ず説明します。	すべての転入者に口頭説明しております。	100
町並・地域振興課	自然	泉谷の棚田(五十崎)で行われるイベントを通じ、300余名のイベント参加者に棚田の大切さを実感していただく。	泉谷の棚田(五十崎)で行われるイベントには300名程の参加者があり、棚田の大切さを実感していただくことができた。	100
	暮らし	年間を通じて休憩時間など業務に支障がない範囲で電気の消灯に努める。	年間を通じて、節電に努めることができた。	100
	暮らし	年間を通じて片面再利用用紙の箱を設置し、裏紙利用による印刷用紙の節約に努める。	年間を通じて、節約に努めることができた。	100
	環境教育	4ヶ所の施設(内子座・商いと暮らし博物館・上芳我邸・凧博物館)で環境に関する資料を掲示し利用者の意識啓発を行う。	4施設に掲示し意識啓発に努めた。	100
八日市・護国町並保存センター	自然	年48回以上木蠟資料館上芳我邸において、内子発祥と伝わる「伊予式蠟花箱晒法」を再現した蠟晒し体験を実施し、地元住民や来館者に環境負荷の低い木蠟の生産方法、使用用途などの良さを伝えます。	生蠟の不足に加え、雨天や酷暑が続いたため、実施回数が35回となり目標を達成することができなかった。ただし、遠足や社会科見学、体験講座など、子どもの来館のある機会には特に人をつけて解説、体験を行うなどして理解・興味を引き出すことにつとめた。	80
	暮らし	八日市護国地区町並保存会で年4回以上伝統行事を再現し、行事の成り立ちや地域に根ざした暮らしについて理解を深めるとともに、来訪者に伝えます。	町並保存会の季節行事として、 ①昔ながらの笹飾り(8月) ②観月会での月見団子づくり(10月) ③芋炊き(10月) ④どんど焼き(1月)を実施し、地区内外から多くの参加者を得た。	100

八日市・護国町並保存センター	暮らし	年 1 回以上八日市・護国町並保存センターにおいて、伝統的建造物の環境負荷の低さを伝える展示を行います。	保存センターにおいて通年で伝統工法の環境負荷の低さを伝える展示を開催中。町内小中学校の依頼を受け、町並み保存や伝統工法に関する解説を実施した。(計 3 回)	100
	環境教育	年 2 回以上内子中学校を対象とした蠟搾り体験学習、来訪者を対象とした木蠟に関する体験学習を実施し、内子の木蠟産業の歴史とともに環境負荷の低い木蠟の良さについて伝えます。	6 月に蠟搾り体験学習を 2 回実施したほか、2 月には内子自治センターと共催で地元小学生を対象とした木蠟づくり講座を開催。歴史や製造工程、用途に関する体験学習会を行った。そのほか、月 1 回・長期休みに木蠟を使った「クレヨンづくりワークショップ」、ハゼノキの芯材を使った「櫨染ワークショップ」を開催し、木蠟や櫨の文化の啓発につとめた。	100
ビジターセンター	自然	ビジターセンター周辺の環境美化に努め、生育に合わせた 4 または 5 カ月に一度、プランターの植え替えを行う。	職員が毎日清掃をしたり、定期的に花の植え替えを行ったりして、町民だけでなく観光客の憩いのスポットとなるよう努めた。	100
	暮らし	3 キロ圏内の移動手段は、自転車を利用するように努める。	できる限り努めたが、体調不良時や天候不良時などは車を利用したときもあった。	70
	環境教育	地域の環境教育意識の向上に寄与できるよう、ドイツフェスタや食のイベントでは、マイコップの推進やごみ分別を行う。また特に、地域諸団体と協働で行う事業については、自然美の見せ方や付き合い方を学び、年 2 回以上その内容を内子町公式観光サイトで広く発信する。	ドイツフェスタは中止。	-
産業振興課	自然	「木こり市場プロジェクト」を推進して、森林保全と地域活性化を目指すために木こり市場での木材取り扱い量の現状維持を目指します。	今年度の木こり市場プロジェクトは昨年度より木材取り扱い量が増えたため、目標を達成した。	100
	暮らし	廃プラスチック及びビニールを JA と協力して回収し、リサイクルを推進するために廃プラスチックの取り扱い量の現状維持を目指します。	例年通りに事業を実施し、広報などでの周知や農協との連携を行い目標を達成する事ができた。	100
	環境教育	農業委員会定例会において、年一回以上は啓発資料を使って学習会を開き、環境問題について学習を行います。	12 月の農業委員会定例会においてゴミの分別などの説明をする、環境学習会を実施した。	100
学校教育課	自然	年 1 回小田深山宿泊体験（町内小学校 5 年生対象）を実施し小田深山の自然について、体験学習し、学習した内容を各家庭まで広げていく活動を行う。	H30.8.28～8.31 の 4 日間において、内子連合、五十崎連合、大瀬・小田連合の、3 団体に分かれて 1 泊 2 日で小田深山宿泊研修を町内の小学校 5 年生 119 人が行った。平成 29 年度からは、研修の拠点を深山荘から獅子越荘に移して実施した。子どもたちは、この研修を通じて小田深山の自然の豊かさを体感するとともに、ふるさと内子の良さを学習した。	100
	暮らし	ノーマイカーデーを月 1 回以上実施する。	通勤経路が遠方にある職員が多いため、月 1 回の実施は困難であったが、懇親会がある日などには乗り合わせに努めた。	50

学校教育課	環境教育	年 1 回環境子ども会議の実施により、町内外に情報を発信し、内子町の取り組みを紹介することによって、環境教育による交流を図る。	内子町環境政策室と共同で、H31.2.13 に環境子ども会議を五十崎共生館で開催し、町内小中学校から 242 人が参加した。環境子ども会議では、気象庁松山気象台調査官 橋口清先生を講師に、環境や気象に関して全体講演を行って頂いた。近年頻発する異常気象を含め、地球環境について学ぶことができた。また、分科会では、11 のブースに分かれ、身近な題材を用いた体験型学習を通して環境学習を行った。	100
	環境教育	環境副読本の活用を図り、年 1 回以上学級便り等で家庭への情報発信と共に、研究を深めていく。	環境副読本は各学校にて行われるよう新 4 年生全てに配布をおこなった。環境に関する情報発信については、学校単位で対応した。なお、平成 30 年度は環境副読本を増刷する年度であり、古い副読本の中で現状の乖離がでている部分について、一部刷新を行った。	100
自治学習課	自然	環境・景観保全や自然を生かした事業など、自然と共存していくための地域づくり事業実施を、自治センターを通じて年 1 回以上各自治会へ呼びかけます。	各自治センターの管内連絡会において、それぞれ呼びかけを行った。	100
	暮らし	開催する会議にて、可能な場合はマイ箸マイコップ、リユース食器、または備品使用を推進します。(推進率 30%)	A L T ウェルカム・フェアウェルパーティー参加者にマイ箸・マイコップの持参をお願いした。また可能な限り使用する施設の備品を利用した。	100
	環境教育	毎年行われている青少年海外派遣事業を通じて、ドイツなどの環境保全先進国で得た取り組みを紹介する機会を年 2 回以上作り、町内への拡大を図ります。	青少年海外派遣事業報告会を 1 月 18 日に実施。一般町民を含む約 46 名の参加があった。報告会では、派遣生が実際に調べた環境保全の取り組みなどの発表を行った。	100
議会事務局	自然	年間を通じて議員への資料提供はエコ活動に協力していただくため、極力両面印刷物を配布します。	どうしても片面ではないといけない資料を除き、両面印刷にした。	100
	暮らし	会議の時の弁当は、すべてリユースできる弁当箱のある業者への依頼を続けます。	お弁当箱がリユースできる業者に依頼を続けた。	100
	暮らし	年間を通じて議会の後の懇親会では、「20・10 運動」(開始 20 分は席を立たずに食事をし、終了前 10 分は席を立たず食事する。)を実施します。	懇親会での毎回の呼びかけにより、定着してきたので、続けていきたい。今後は、終了 10 分前に自席に戻ることが課題。	80
	環境教育	議場見学に来る小、中学校の生徒に対し、課の環境に関する取り組みを 1 回以上説明します。	お弁当箱がリユースできる業者に依頼を続けていることなどを説明した。	100
小田支所	自然	「小田深山ふれあいの森」の緑化推進(広葉樹植栽の実施)・・・年 1 回以上	3/9 延べ 60 名参加で植樹を実施。	100
	自然	自然体験型イベントの実施・・・年 3 回以上	年 3 回以上の自然体験型イベントを実施。延べ 150 名参加。	100
	暮らし	グリーンカーテンの住民への推進(苗の配布)と小田支所における実施。・・・苗の配布 80 本以上	累計 204 本を配布。	100

小田支所	暮らし	「えひめA I - 1」の配布・・・年間 80 本以上配布。	累計 282 本を配布。	100
	環境教育	すべての転入者への環境基本計画取り組みの周知・資料配布	小田支所窓口において対象者に周知・配布できた。	100
	環境教育	すべての転入者へゴミの分別を周知し、実践をお願いする。	小田支所窓口において対象者に周知できた。	100
内子保育園	自然	子どもたちと一緒に作った腐葉土を年 3 回の土作りに使用し、園の畑での野菜作りに継続して活用します。	季節ごとに畑を活用する際、積極的に腐葉土を混ぜ、活用することができた。	100
	自然	子どもと一緒に園の畑で野菜を栽培して、毎回給食に活用します。	取れた野菜を給食で活用できたが、メニューや衛生管理によっては活用に至らない場面もあった。衛生管理の面からも、給食だけの活用は難しさを感じるため、保育の中で食する、また家庭に持ち帰る等活用を考慮していきたい。	70
	自然	四期半に 1 回以上小田川に散策に行き、自然観察や清掃活動に努めます。	冬季に実行することができなかった。今後は小田川周辺のみならず、町並み周辺も含めて取り組んでいきたい。	60
	暮らし	毎月 1 回『クリーンデイ』を設け、園庭の草引きや落ち葉集めなどをします。また、集めた草葉は腐葉土作りに活用します。	月により実施できない時があった。エコ意識を高めていく視点からも保育内容に積極的に組み込み、継続していきたい。	70
	暮らし	アルミ缶廃油回収日を月 2 回設け、地域や保護者に呼び掛けながら回収します。また日常的に持ち込みやすいよう回収環境を見直します。	地域に配っている便りに回収日を案内して呼びかけた。持ち込んでいただくこともあった。回収環境は工夫の余地があると考える。	80
	暮らし	年長児は『エコ見回り隊』を引き継ぎ、生活の中で水・電気・リサイクルごみの見回りを週 3 回以上継続します。	商店街へのエコ見回り隊を通して、意欲もさらに高まり継続して実行することができた。生活の中に浸透できるよう更なるアプローチを考えていきたい。	80
	環境教育	エコに関する集会を年 5 回以上開催し、ゲームや読み聞かせを通して、楽しみながらエコ活動を推進します。	集会などの際に、エコに関する内容を盛り込んだ。各クラスでの活動が多いので、全体的な意識向上を今後狙っていきたい。	80
	環境教育	『エコだより』を年間 2 回発行し、地域や保護者にエコ生活の啓発を行います。	地域に配布する便りの中で、エコに関する啓発を行った。もっとクラスだよりや園だよりで発信できるようにしていきたい。	70
	環境教育	野菜や草花の世話や栽培、自然散策や清掃活動を通しての成果や気付きを、年 1 回以上報告する機会を設けます。	子どもたちの生活の中では、話し合う機会を取り入れることができたが、保護者を巻き込んだ活動報告まで至らなかった。今後の課題としていきたい。	50
五城保育園	自然	畑で栽培した野菜は、園児と一緒に収穫・調理をしたり、給食の食材としたりし、年 7 回以上、食育の時間を設けます。	園児と一緒に畑で野菜を栽培し、収穫した野菜は調理室に持って行って給食の材料としたり食育教室に取り入れられた。また、調理室の先生から食材のお話を聞いたり、管理栄養士さんに来ていただいたりして食育教室や親子教室を通して、食事の大切さや有難みを学ぶことができた。	100
	自然	朝顔やゴーヤで『緑のカーテン』を 15 m <sup>2</sup> 作り、電気代の削減に努めます。	朝顔やゴーヤ、きゅうりはよく育ったが、今年度は例年のない猛暑であったため、電気代の削減にはつながらなかった。	80

五城保育園	自然	夏場は、プール遊びをする日とウォータースライダーをする日を決めたり、プール遊びで使用し残った水は、畑や花壇の水やりに毎回利用したりする事で、水道代の削減に努めます。	夏場は、プール遊びをする日とウォータースライダーをする日を決めたり、プール遊びで使用し残った水は、畑や花壇の水やりに毎回利用したりする事で、水道代の削減に努めました。	100
	暮らし	畑や花壇で栽培する野菜や花の種苗は、アルミ缶回収で得た収益金で年2回以上購入します。	畑や花壇で栽培する野菜や花の種苗は、アルミ缶回収で得た収益金で年2回購入しました。	100
	暮らし	年間を通じて家庭で不要になった物は、保護者と連携を図り、地域の東自治センターの文化祭の時に、フリーマーケットに出品することで、資源の循環を目指します。	昨年度は西日本豪雨のため不要品を災害支援に送った家庭が多かったため、フリーマーケットとしては実施しなかったが資源の循環には努めることができました。	100
	暮らし	園児と共に月1回(20日)の『みんなできれいデー』を行い、園内の掃除・園庭の草引き・散歩時のゴミ拾いなどをします。毎月、実施日には反省や評価を記入して、目標達成に努めます。	園児と共に月1回(20日)の『みんなできれいデー』を行い、園内の掃除・園庭の草引き・散歩時のゴミ拾いなどをしましたが、反省や評価の記入のノートの作成はできていなかった。	80
	暮らし	床暖に使用するペレットの使用済み灰を畑にまいて肥料にしたり、家庭菜園をされてる希望者に配布したりし、すべてリサイクルします。	床暖に使用するペレットの使用済み灰を畑にまいて肥料にしたり、家庭菜園をされてる希望者に配布したりし、すべてリサイクルしました。	100
	環境教育	園用の『エコ便り』を年2回、地域版を年2回作成し、地域に回覧して、廃油やアルミ缶などをリサイクルしている状況を知らせ、リサイクルに協力してもらいます。	園用の『エコ便り』を年2回配布して、廃油やアルミ缶などをリサイクルしている状況を知らせ、リサイクルに協力してもらいました。地域版は作成しなかった。	70
	環境教育	年長児が『ぎゅっと君』となって、園内の水・電気・ミックス紙のエコ見回りを週1回(金曜日)行き、その活動の様子など『エコ便り』や『園内掲示板』で年1回以上紹介します。	年長児が『ぎゅっと君』となって、園内の水・電気・ミックス紙のエコ見回りを週1回(金曜日)行った。『園内掲示板』は今年度は活用できませんでした。	80
環境教育	年1回以上年長児が内子東自治センターへエコ見回り隊に行ったり、園外へ散歩に行く際には、落ちていたゴミや空き缶などを拾い持ち帰り分別したりして、エコに対して興味・関心を持つ機会をつくれます。	年長児が内子東自治センターへエコ見回り隊に行ったが、昨年度は猛暑のため園外への散歩があまりできずゴミ拾いもできなかったが、エコに対する興味や関心は日頃の生活の中で気づいたことを伝えていった。	100	
大瀬保育園	自然	ペレットによる床暖房を導入し、灯油の使用量を1/3以下に減らします	灯油をし使用することがなかった。	100
	自然	LEDを導入し、電気の使用量を1/3に減らします。	1/3程度の削減にはなっている。	90
	自然	家庭や園から出る廃材を利用し、年12回以上制作等に利用します。	実施している。	100
	暮らし	年3回以上、地域の方との交流を通して、昔の生活や遊び、地域を知り、今の生活に繋げるようにします。	いのこ作りのみ実施できなかった。が、川遊び関係で、大瀬の河の生き物のお話を聞く時間を持ち、実施できたことが活動とつながり、大きな成果につながった。	90
	暮らし	年10回以上園で、友達と一緒に野菜を作り、自分たちで料理も作り食べることで、生命のつながりを知り、感謝の気持ちを感じます。	年10回以上園で野菜やお米を作り食したが、野菜が思うような収穫にならなかったことが残念だった。	60

大瀬保育園	暮らし	年 2 回以上、エコ便りや写真での保護者への掲示を行います。	年 1 回エコ便りを発行し、年 2 回以上保護者へ掲示を実施した。 ペットボトルキャップ、アルミ缶回収を継続している。	100
	暮らし	週 1 回以上エコ見回り隊を実施します。	エコ見回り隊は実施できなかった。幼児棟クラスで担任が話をした。	0
	環境教育	年 2 回、エコ集会を行います。	1 回しか実施していない。	50
こぼと保育園	自然	年間を通して「えひめ AI-1」を水やりで使用し、野菜や植物の栽培を行う。ミニ小田川や龍王公園での体験活動を年間を通して行う。	園で栽培した野菜などに適度に「えひめ AI-1」を使用することができた。ミニ小田川や龍王公園には日々の保育や遠足等で訪れることができ、活動に取り組むことができた。	80
	暮らし	年間を通じてポスターを掲示し、ペットボトルやアルミ缶の回収を呼びかけ、企業や保護者の協力をえながら継続していく。年 3 回以上、廃材や空き箱を制作や保育活動に利用し、家庭にも再利用の情報を提供する。	ポスターを掲示したことで、定期的に保護者がアルミ缶をまとめて園に持ってきていた。ペットボトルの回収は行っていないが、キャップのみ回収を呼びかけ、集めることができた。	80
	環境教育	月 1 回程度、周辺地域のゴミ拾いを実施していき、子どもたちへの環境意識を高めていく。年 2 回、保護者地域に向けてエコだよりを発行する。	ほぼ毎月豊秋河原へ出かけ、子どもたちと一緒にゴミ拾いに取り組んだ。また、その様子をエコだよりや園だよりで発信することができた。	100
くるみ保育園	自然	年 12 回以上戶外活動時に自然物を収集し、室内に飾ったり、遊びに活用したりして自然に親しめるようにします。	散歩に出かけたり園庭で遊んだりして季節の移り変わりや景色の変化に気づくことができるようにかかわり、子どもたちの気づきを大切にしました。また、草花や木の実を採集し、室内の飾りを作ったり、クリスマスツリーなどの製作をしたり等大いに活用した。	100
	自然	年間を通じて子どもたちと一緒に夏野菜を育て、収穫した野菜は給食に活用します。	レタス、キュウリなどの夏野菜に限らず、大根、人参などの冬野菜も年長児を中心に栽培し、収穫した野菜を給食に活用した。	100
	自然	へちま、風船蔓、ゴーヤ、夕顔で 45 m <sup>2</sup> のグリーンカーテンを作り、日よけとして活用します。	職員室・乳児組前と幼児組前にへちま、風船蔓、ゴーヤ、夕顔などでグリーンカーテンを作り、日よけとして活用した。できたゴーヤは保護者が喜んで持ち帰り、家庭で食材として活用してもらった。実際に子どもたちとグリーンカーテンの陰に入り、日向との体感温度の差を感じることができた。	100
	暮らし	廃油、アルミ缶、ペットボトルのキャップの回収を月 1 回実施します。	毎月 15 日をエコの日と定めて廃油等の回収を実施した。保護者への周知もできてきており、エコの日に限らず、対象物を持って来る家庭が増えた。	100
	暮らし	給食で出た野菜や果物の皮は、すべて近所の農家の方に肥料として提供します。	給食で出た野菜や果物の皮のすべてを近所の農家の方に肥料として提供した。	100
	暮らし	毎月 15 日をエコの日とし、園内外のゴミ拾いや草引きなどを行い、子どもと一緒にエコ活動に取り組みます。	幼児組を中心に園庭や畑などの草引きや石拾いを行ったり、園内の拭き掃除をしたりエコ活動を行った。	90
	環境教育	「エコだより」を年 2 回以上発行したり、エコ活動の様子を掲示し、保護者や地域に知らせ、その啓発につなげます。	今年度はエコだよりを 1 回しか発行できなかった。	70

くるみ保育園	環境教育	年間を通じて誕生会のプレゼントや手作り玩具などはできるだけ廃材を利用して作り、それらを活用します。	誕生会のプレゼントは牛乳パックを利用してけん玉を手作りした。保育ではペットボトルを使って水遊びの玩具を作ったり、牛乳パックや段ボールを利用して収納用品を使ったりして活用した。	100
	環境教育	年1回以上ミニ小田川の清掃活動を行ったり、浄化センターを見学したりしてエコに対する意識を高めます。	年長児が浄化センターと排水地のそれぞれの見学に行き、自分たちを取り巻く生活について学べる機会があり、エコに対する意識が高まった。7月の水害があったため、ミニ小田川には出向くことができなかった。ポタポタボードを活用しながら水を大切に作る気持ちは高められた。	100
石畳へき地保育園	自然	年間通して子どもたちと散歩に出かけ、地域の自然に触れて遊んだり観察したりします。	生き物を観察したり川遊びを何度もしたりして、充実した散歩を楽しむことができた。	100
	自然	ゴミ拾いを年3回以上実施します。	ゴミ拾いを4回実施することができた。	100
	暮らし	年間通して廃材を利用して制作をしたり、自然物を利用して遊んだりします。	段ボールハウスを作って遊んだり、車や道路を作って走らせて遊んだり、色々な物を徳って1年間楽しむことができた。	100
	暮らし	年間通して保護者に積極的に呼び掛け、アルミ缶・廃油を回収しリサイクルにつなげていきます。	親子でリサイクルの箱を作り、家庭に持ち帰って利用してもらうようにした。	100
	環境教育	「エコだより」を年2回配布し、子どもたちの取り組みを家庭に紹介し啓発につなげていきます。	エコだよりを年3回配布した。	100
	環境教育	子どもたちと一緒に7種類以上の野菜を育て、「親子で食育」につなげます。	子どもたちと一緒に8種類の野菜を育て、親子でお料理を実施した。	100
	環境教育	年間通して、エコに関する絵本貸し出しを実施し、エコに関する理解を深めていきます。	エコに関する絵本の貸し出しも実施したり紙芝居を読んだりした。子どもたちと保育園での簡単なエコチェックも実施した。	100
内子児童館	自然	職員が1人1回以上、ホタル観察などの自然観察会に参加する。	自然観察会に参加することが出来なかった。その分、児童館の庭や畑の手入れなど、身近に出来ることを行った。	70
	自然	トイレや流しには、週1回、植物への灌水には、適宜「えひめA I-1」を使用する。	トイレや流しには、週1回以上「えひめA I-1」を使用することが出来た。	100
	暮らし	月1回程度クリーン活動を行う。	月1回クリーン活動を行うことが出来た。	100
	暮らし	年間を通じてペットボトルのキャップ回収を行い、児童館便りにて年2回以上回収報告を掲載する。	じどうかんだよりにて年2回回収報告をすることができ、キャップを使った階段アートを作ったことも掲載することが出来た。	100
	環境教育	エコに関する“エコなこと”を、児童館や児童クラブのお便りに、年1回以上記載する。	児童館内にて“エコなこと”を掲載することが出来た。	100
	環境教育	子どもたちと一緒に年3回、野菜や花の栽培を行う。	子どもたちとたくさんの野菜や花の栽培を行い、年3回以上することができた。	100

五十崎児童館きらり	自然	廃材や廃品を使って製作活動を年 2 回以上行い、笹飾りに利用したり親子クラブでの製作活動に利用する。	ペットボトルを子どもフェスティバルで出た分を回収したり、利用者に呼びかけ持ってきってもらったりして、ペットボトルのロケット風鈴 91 個を作って笹飾りで展示をした。また、2 月に親子クラブのお店屋さんごっこの商品作りに廃材を使った。	100
	自然	プランターの水やりにはえひめ A1 を入れ、プール遊びに使った水を全て利用する。	年間を通して野菜の栽培を行い、水やりの際にとときえひめ A1 をませた。夏場は児童館の仮設プールのあまり水を使って夕方の水やりを行った。	90
	暮らし	21 m <sup>2</sup> 以上のふうせんかずらやゴーヤを植えてグリーンカーテンを作り、電気代の節減につなげる。	19 本のゴーヤを植えて、ホールの窓際にグリーンカーテンを作った。また、職員室側にはふうせんかずらを植えた。ゴーヤはおやつ作りに利用したり、夏野菜料理教室に利用したりし、子どもの食育にも利用した。	90
	暮らし	アルミ缶回収で得た収益金で野菜の苗を購入し、収穫した野菜全てを児童クラブのおやつや、親子クラブ、子どもの料理教室に利用する。	年間を通して 11 種類の野菜の栽培を行い、その中の一部をアルミ缶回収の収益金を利用した。収穫した野菜は料理教室やおやつ作り教室、児童クラブのおやつとして全て利用した。	100
	環境教育	アルミ缶・廃油ペットボトルキャップ回収を続けていく。年 6 回以上月 1 回のきりり通信で知らせたり、掲示して地域の人にも知らせて協力をお願いする。	児童館の玄関先にアルミ缶・廃油・ペットボトルキャップの回収ボックスを設置し、利用者や地域住民に協力してもらうように口頭で伝えた。また、室内に廃油の集まった量を掲示したり、廃油がバイオディーゼル燃料に変わっていく仕組みを知らせた。	90
	環境教育	児童クラブで資源について年 1 回以上環境学習会を行い、大切さを知らせたり物を大事にすることを伝えていく。	夏休みを利用して児童クラブで環境学習会を 1 日行った。今年度は浄化センターへの見学と、浄化槽の仕組みについての学習を行い、汚水が綺麗になっていく過程や、自然を守るために子どもたち 1 人々ができることを考えて七夕にして飾った。	100
内子子育て支援センター	自然	施設周辺の清掃を毎日実施する。	施設周辺の清掃の実施目標、グリーンカーテンの設置において目標が達成出来た。	100
	自然	ゴーヤのグリーンカーテンを 10m 設置する。	グリーンカーテンの設置では、ゴーヤ以外の蔓植物（夕顔の）の葉が大きかったため日よけの効果が上がった。	100
	暮らし	ペットボトルキャップ回収を来館者や利用者に呼びかけて、年間 6 kg 回収に努める。	ペットボトルの回収は 12 kg の回収が出来た。	100
	暮らし	ゴーヤのグリーンカーテンを再利用したイベントを年 1 回以上実施する。	ゴーヤと夕顔のツルを使ってクリスマスリース作りを 1 回実施して、参加者に好評だった。	100
	暮らし	年 1 回以上内子の町並みを散歩し、内子の良さを館自利。	乳幼児学級の親子を対象に町並みの散歩を 1 回実施した。ガイド付きで参加者には、良かったと言ってもらった。	100

子育て支援センター	環境教育	乳幼児学級・親子教室・親子遊び「きしゃぼっぼ」・来館者の親子を対象に、身近な素材・廃材（トイレトーパーの芯、牛乳パック、紙皿、空容器等）を使って、玩具や子育てに使える活動を年1回以上実施する。	廃材については、親子遊びの事業等で牛乳パックを使ったおもちゃを製作したり、食事用の椅子を作って利用した。	100
	環境教育	親子教室（小田地区）で、内子産の野菜を使った料理を作る活動を年1回以上実施する。	実施できた。	100
障害者地域活動支援センターかい	自然	月1回程度行っている施設のレクリエーションの内、年に3回は自然に親しむような内容（お花見・茶摘み・釣りなど）とする。	伊方ヘドライブ、海岸や風力発電の風車を見学、11月 家族会旅行 しまなみ急流観潮船、12月 農作業体験	100
	自然	公衆トイレ清掃（委託）に行く時に、毎回施設周辺のゴミ拾いを行う。	トイレ清掃（平日はほぼ毎日）に行く途中、目立ったゴミを拾っている。	100
	暮らし	年間約8回のイベントでの自主製品販売のうち、4回は材料の一つに内子町産の物を使い販売する。（ラベルに内子町産と記載）	内子町産のブルーベリーやリンゴを使用しお菓子を作り販売	100
	環境教育	月1回は、朝礼か終礼の際に、エコに関する情報、取り組みについての話題提供を行う。	ゴミの分別や再利用、温暖化などなど随時話題提供	100
内子幼稚園	自然	年間を通じてプールで使用した水は、芝生や野菜の水やりとして利用する。	プール遊びの後、野菜や花壇の水やりを幼児と行いプールの水や水遊びで残った水を再利用したりした。	80
	自然	月4回以上トイレ掃除で「えひめ AI-1」を利用する。	毎月4回行えないときもあったが、活用することができた。	80
	暮らし	給食で飲んだ牛乳パックをため洗いして全てリサイクルする。	毎日給食の後、幼児と一緒にリサイクルすることができた。引き続き継続していきたい。	100
	暮らし	日々の保育で節水や節電について子どもたちと確認し合い、意識して生活する。	幼児とどうして節電・節水しなければならないか年長児が中心となって考え、当番活動としてトイレの水道や電気のつけっぱなしがないか毎日チェックすることで、意識して生活する姿が見られた。	90
	環境教育	年に2回エコだよりを発行し、幼稚園でのエコ活動について子どもや保護者に伝える。	エコだよりを年2回発行した。エコ学習や内子町の自然物での草花遊びの様子などを伝えた。また、普段幼児が行っているエコ隊の様子などを伝え、保護者にもエコを意識してもらえるよう文だけでなく写真で分かりやすく伝えた。	100
	環境教育	エコについての絵本の読み聞かせやエコ学習を学期に2回行う。	教師がエコ学習をしたり、うちみづネットの方に来ていただいた。夏祭りではゲームをしてエコについて知ったり、ゴミを出さない生活の仕方を教えてもらったりして、エコについて学びを深めることができた。	90
立川幼稚園	自然	野菜や植物の栽培を行い、年間を通じて「えひめ AI-1」を水やりを使用する。	野菜や植物の栽培はできたが、水やり「えひめ AI-1」を使用する回数が少なかった。	90
	自然	年間を通じて廃材を製作や保育活動に使用する。家庭にも廃材の再利用を呼び掛ける。	園でも家庭でもできた	100

立川幼稚園	暮らし	年間を通じて自然保護の大切さを絵本や紙芝居などの教材、散歩などの活動の中で伝えていく。	散歩はあまりできなかったが、自然に関することは、できた。	90
	環境教育	年に1回環境マイスターの方をお呼びして、自然保護の学習をする。	実施できた。	100
五十崎幼稚園	自然	年間を通し、トイレや流し台の排水口に「えひめ AI-1」を使用する。	達成できた。次年度からも続けていきたい。	100
	自然	年間を通し、牛乳パックのため洗いの方法を知らせ、水を大切にする。	達成できたと思う。	90
	暮らし	使用済みの天ぷら油を、年間1～2缶、保護者と協力しながら回収する。	保護者の方は難しかったが、地域の方と協力できた。	90
	暮らし	ゴミ入れとして、全て広告誌や新聞紙で作ったゴミ袋を利用する。	達成できた。	90
	環境教育	年1～2回のクラス便りにエコの記事を載せ、各家庭に配布し、エコに対する意識を共有できるようにする。	年に数回しかできなかったため、次年度からも行っていきたい。	60
	環境教育	園周辺のエコマップ作りを目標にして、年長児を中心に月1回散歩に出かけ、情報収集をする。	達成することができなかった。	20
小田幼稚園	自然	地域や関係機関と連携して、小田地域の自然・川遊びに関する講話や体験活動を年に1回以上実施する。	今年度もゲストティーチャーによるかじか取りの体験は、増水によりできなかった。しかし、正月遊びを教えていただくときには、手作りの羽根突きセットを作ってきていただいた。既製品でなく、材料を集められて作っていただき、子ども達も喜んで羽根突きセットを使って遊ぶことができた。	90
	自然	月に1回程度散歩に出かけ、地域や自然に親しむ。	天候を見ながら、木の実を探しに行ったり、城の台公園に行くなどして、年間15回以上は散歩に出た。	100
	暮らし	年1回以上廃材や廃品の回収を家庭にも呼びかけ、子どもたちの制作材料にする。	廃材入れの箱をテラスに用意すると、保護者だけでなく、子どもたちも意識して、家庭から用意してくるようになった。	80
	暮らし	給食の牛乳パックは、溜め水洗いをして集め、全リサイクル回収へ出す。	毎日、溜め水洗いを行っている。できなかった子どもも、友達同士で教えあったりして、みんなで気を付けようとする姿が見られた。	90
	環境教育	月に1回、エコに関する紙芝居や絵本の読み聞かせを実施する。	日々の保育の中で使い方を知らせたり、一緒に考えていくようにした。その中で、月1回はできていないが、子どもたちに紙芝居を読んでいった。	65
	環境教育	年1回以上、エコに関する記事を園だよりに掲載し、各家庭に知らせていく。	ペットボトルのキャップ回収、廃材集めなど、えんだよりに3回は記事を載せている。	100
内子小	自然	校内トイレ・手洗い場、プール等に、「えひめ AI-1」を毎週1回投入し、生活排水をよりきれいにする。	「えひめ AI-1」を活用できなかったため、活用していきたい。	0

内子小学校	暮らし	アルミ缶、ペットボトルキャップ集め週間を月1回設定し、保護者や地域にも働きかけ、年間を通して回収を行う。	アルミ缶・ペットボトルは、強調週間を設定し、子どもたちにも呼び掛けたので、集めることができた。	60
	暮らし	P T A 保健委員会による標準服、体操服等のリユース活動を参観日を利用して年1回行う。	リユースは、今年度から2年に1回になったので、来年度行う予定である。	60
	環境教育	小田深山での集団宿泊活動や環境子ども会議に向けて、内子町の自然や環境について学習し、理解を深める。(5年生・年間30時間)	5年生が小田深山の集団宿泊活動をおして、環境について関心を高め、知識を深めることができた。	90
	環境教育	外部講師と連携しながら環境学習を進める。(年間12回)	「うちみづネット」の協力を得て、各学年外部講師の協力を得ながら、学習を進めることができた。	100
大瀬小学校	自然	ペレット暖房の導入により、灯油使用量を前年度よりも減らします。	ペレット暖房が H29 年1月から稼働したため、目標は大幅に達成された。	100
	暮らし	年間を通じてミライムの利用により、会議資料や職員研修資料等の印刷物を削減します。	目標達成の数値化は難しいが、概ね達成できた。	80
	暮らし	水道使用量のメーターチェックを週に3回程度行います(漏水対策)。	概ね達成できた。	80
	環境教育	学校だよりにアルミ缶回収の状況を定期的に掲載し、保護者・地域へ情報を配信します。	アルミ缶回収の状況は、年度末に報告した。学習発表会において、環境保全に関する劇を行った。	100
立川小学校	自然	校内の落ち葉収集を、週に3日以上実施し、腐葉土としての校内での利用を促進する。	落ち葉の多い時期には、毎日落ち葉収集を行った。校務員さんに協力をしていただき、校内で利用をした。	80
	暮らし	児童会が行っているアルミ缶回収を広く地域に呼びかけ、年間150kg以上のアルミ缶の回収を目指す。	今年度もアルミ缶回収だけでなく、古着や古紙の回収なども呼びかけて地域の方に協力をしていただいた。今年度は約340kgのアルミ缶を回収することができた。	100
	環境教育	森林や川等の自然に関する体験学習を学期に1回以上実施する。	稚鮎の放流や椎茸植菌など環境に関する体験学習を行った。学期に1回はできなかったが、1年を通して3回実施することができた。	100
石畳小学校	自然	里地里山の再生のため、全校児童が地域の方の協力を得て、休耕田を利用したそば作り、米作りを行う。収穫後は、そば打ちをしたり餅をついたりして、年6回以上地域の方々とは交流を図る。	そばの種まき・収穫・そば打ち、田植え・稲刈り・餅つきと年間6回、地域や保護者の協力を得て行事を行うことができた。他にも、鮎の放流など、自然に関わる取り組みを独自に行うことができた。	100
	自然	「えひめ AI-1」を排水溝に月1回以上積極的に活用する。6月のプール利用前に40Lずつを3回活用する。	夏のプール清掃前に、「えひめ AI-1」を3回に分けて活用した。また、プール使用后、冬の時期にも2回、活用することができた。しかし、毎月の定期的な活用がなかなかできなかった。	80
	暮らし	アルミ缶回収を行い、定期的に全校児童や保護者・地域の方々へ呼びかけをする。	地域の方々へも積極的に回収を呼びかけ、多くのアルミ缶を回収することができた。	100

石畳小学校	暮らし	夏の日差し・暑気を防ぐため、毎年6月から11月まで児童会室と職員室の南に6㎡の緑のカーテンを設置する。	児童会室・職員室の南に、それぞれゴーヤ・ヘチマ・アサガオを植え、緑のカーテンを作った。少し生育が悪い箇所もあったが、十分日差しが和らぎ、効果的であった。	80
	環境教育	年間を通じて「子ども環境会議」に向けて、1年間どんな取り組みをしていくか教師・児童とともに話し合い、学年末にはその成果や改善点を評価する。	子ども環境会議に向けて、児童の意識を高めるための話し合いを行った。成果・改善点について評価する機会をもてなかった。	60
	環境教育	毎月の学校便りや学級通信を活用して、年3回以上本校の取組（アルミ缶回収・「えひめ AI-1」の活用・環境教育の実践等）を紹介する。	毎月のお便りを通して、本校のアルミ缶回収や、環境教育の実践について家庭や地域の人々に紹介することができた。	80
五十崎小学校	自然	各学年の学級園を計画的に利用し、植物や野菜を年間2回以上植え、世話をする。	学級園を利用して、ミニトマト、トウモロコシ、ピーマン、キュウリなどの夏野菜、ジャガイモ、サツマイモなどのイモ類、ヒマワリ、ヘチマ、ホウセンカ等の花を育て、児童は成長や収穫の喜びを味わうことができた。秋以降の利用が少なかったため課題である。	70
	暮らし	牛乳パックのリサイクル活動を継続する。また、毎週1回アルミ缶回収を実施し、家庭・地域にも協力を呼びかける。	牛乳パックのリサイクルについては、給食実施日はすべて実施しており、リサイクル活動が習慣化している。アルミ缶回収についても、保護者や地域にも活動が根付いており、収益金を有効活用することができた。さらに活動の輪を広げられるよう努めていきたい。	100
	暮らし	印刷ミス用紙の裏紙を利用して、伝言用紙やメモ用紙を20冊以上手作りし、活用する。	印刷ミス等不要となった用紙の裏紙を使って、伝言用紙やメモ用紙を年間で約25冊手作りした。伝言メモ用紙については、メモを取りやすいよう工夫して有効活用することができた。	100
	環境教育	年3回以上各学年で取り組んだ環境教育の実践を学校だよりやホームページで紹介し、家庭や地域に情報発信する。	学校や各学年で取り組んだ環境教育の実践（バードウォッチング、小田川沿いのごみ拾い、浄化槽協会の出前授業、トンボ観察会等）について、学校だよりやホームページを利用し、積極的に情報発信をすることができた。	70
天神小学校	自然	年間を通じて落ち葉等で堆肥を作り、学級園等で活用する。	落ち葉や草をくすのきの根元に運び、土作りをした。	90
	自然	ヘチマの栽培活動で8㎡のグリーンカーテン作りに挑戦し、植物の利用による暑さ対策及び空気の清浄化を図る。	ヘチマの栽培活動を昨年度より継続して行い、暑さ対策や空気浄化を図った。	90
	暮らし	保護者や地域の方々に呼び掛け、アルミ缶回収を行う。アルミ缶売却により得た収入は、花・野菜等の種・苗、肥料の購入に充て、年2回子どもたちによる一人一鉢運動を実践する。	保護者や地域の方々に呼び掛け、アルミ缶回収を行った。年間を通してかなりのアルミ缶が集まった。アルミ缶売却により得た収入は、花・野菜等の種・苗、肥料の購入に充て、子どもたちによる一人一鉢運動を実践した。また、清掃道具の購入費にも充て、地域清掃に活用した。	90
	環境教育	1学期末に地域清掃を行い、地域の環境美化に努めると共に、ごみの分別についても児童を通じて、家庭・地域に呼びかける。	3学期は6年生を中心に「地域に恩返しをしよう」を目的とした環境美化運動を行った。	95

天神小	環境教育	環境学習に関連した学習等の様子を、学期1回以上通信等で情報発信し、家庭や地域への啓発を行う。	4年生を中心に環境学習に取り組み、リサイクルやリデュース等学習したことを、全家庭に発信する新聞を作り啓発活動を行った。	95
小田小学校	自然	サツマイモの栽培、収穫、料理等、寺村自治会と連携した活動を年3回以上行う。	今年度も寺村自治会指導員の方のご協力をいただき実施した。幼稚園児と1、2年生が5月16日に苗植えを行った。10月3日に芋掘りをし、11月1日に寺村自治会館で料理教室を行った。子どもたちは楽しみながら体験活動を行うことができた。	100
	自然	小田川に親しむ活動を年6回以上行う。	4～6月にかけて、川辺に生息する植物を観察して、季節の変化を味わいながら小田川に親しむ活動を行った。また、5年生は中学校横の小田川で水生生物調査を行った。8月末には、小田深山宿泊体験学習で小田深山の小田川の水生生物調査を行った。2年生は8月11日にPTA親子活動の一環として登貴姫橋下の小田川で川遊びを行った。ただ、今年度は7月の豪雨など、川が増水する時期があり、予定していた活動が中止となることもあった。	90
	自然	小田に生息する野鳥に親しむ活動を年3回以上行う。	野外観察クラブがクラブ活動の時間にバードウォッチングを継続して行った。3年生と5年生はゲストティーチャーを招き、バードウォッチングを行った。運良くクマタカを観察できて、子どもたちは大喜びだった。毎月、学校長が今月の野鳥を紹介する集会の時間をとった。野鳥の鳴き声や習性などを話し、子どもたちは興味深く聞いていた。今年度は、県から愛鳥モデル校に指定された。野鳥に関する資料を購入した。	100
	自然	小田の森林、巨樹・巨木に親しむ活動を年3回以上行う。	6年生が総合的な学習の時間を活用して、校区内の巨樹・巨木の学習を行った。現地に行って観察したり、パソコンを使って資料を作成したりした。5年生は小田深山宿泊体験学習で、「深山の主」の見学をし、大自然に触れることができた。また、10月には森林教室を行い、原木市場の見学や炭作り体験活動を行った。教職員も校区内の巨樹・巨木の見学研修を昨年度に引き続き行った。	100
	暮らし	印刷ミス用紙や不要な用紙の裏側を活用して、伝言用紙やメモ用紙を15冊以上手作りし、活用する。	印刷ミスした用紙を収容箱に入れ、起案用紙や回覧名簿用紙、メモ用紙に再利用した。また、校内会議や職員研修資料として活用を図った。	70
環境教育	学年便りや学校便り、またはホームページに、環境に関する実践やエコに関する記事を年6回以上掲載する。	上記のサツマイモの栽培活動、巨樹・巨木の学習、小田川に親しむ活動などを随時、学級便りやホームページに掲載した。アサギマダラを学校に呼び込もうと、フジバカマを植樹した。10月にのべ50頭あまりのアサギマダラが飛来して、その様子を掲載した。一人一プランター運動をし、校内の環境美化に努めた。	100	

内子中学校	自然	年1回 PTA と協力して敷地内の草刈を実施する。	8月に実施。	100
	自然	年に1回3年生全員が廃油石けんづくりを体験する。	1学期に総合的な学習の時間で実施	100
	暮らし	牛乳パックを回収し、年間100ロール以上のトイレトーパーへのリサイクルの促進を目指す。	トイレトーパー還元数 26袋。	100
	暮らし	生徒会活動の一環として、最低月1回以上アルミ缶と使用済割り箸を回収する。	アルミ缶は毎月実施。割り箸は回収は実施せず。	80
	暮らし	20㎡のグリーンカーテンを設置し、冷暖房の削減に努める。	夏場のグリーンカーテンの使用、こまめな節電、退庁時刻を早めることを意識した。目標は達成できなかったが、大幅に増えることはなかった。	100
	暮らし	効率の悪い、燃料代だけを消費するペレットストーブの使用を中止し、石油ストーブに切り替え、燃料費を前年比1%以上の削減に努める。	エアコンだけの電気料金が分からないが、灯油代は前年度より約8万円削減できた。	100
	環境教育	環境子ども会議への参加者を1年生全員とする。	2月に出席生徒全員参加	100
	環境教育	学校だより「町並み」を通じて、年に3回学校の環境に関する取組を紹介する。	校報は毎月発行。環境に関する取組をホームページでも紹介した。	100
大瀬中学校	自然	校内の落ち葉収集や除草活動を週3日以上実施する。	落ち葉収集は、季節によっては行わなかったが、除草活動はほぼ毎日実施した。また、PTAの協力を受けながら、草の刈り払いも頻繁に行った。	90
	暮らし	各月の電気、水道、ガス、紙の使用量を職員に毎月回覧することで、エコオフィス推進の協力を呼びかける。	各月の電気、水道、ガス、紙の使用量を職員に毎月回覧することで、エコオフィス推進の協力を呼びかけることができた。目標には掲げていないが、灯油の使用については、節約できたと言える。	90
	環境教育	日々の振り返りをする「e-co とカード」を毎週集計し、その結果や問題点について、学期に1回、生徒集会等で呼びかけて、問題解決を図る。	「e-co とカード」をの記入と集計は、できないこともあった。また、集会については、内容をさらに充実させていきたい。	70
五十崎中学校	自然	1ヶ月に2リットルのペットボトル（5本）の「えひめA I-1」を散布する。	毎日清掃時に、生徒用トイレに散布し利用した。	80
	暮らし	牛乳パックを毎日回収し、トイレトーパーへのリサイクルをする。	トイレトーパー16個と交換することができた。	100
	環境教育	環境副読本を利用した授業を（1回以上）各学年で行う。	総合学習や、社会、理科などの授業で副読本を利用した。	75
小田中学校	自然	えひめA I-1 を週1回トイレと洗面所に使用するとともに、学校通信等を通じて、学期に1回保護者に対してその利用促進を呼びかけます。	生徒会委員会活動とタイアップして、生徒の意識を高揚させながら実践することができた。学校だよりを利用した啓発も行い、利用促進を呼びかけることができた。	100
	自然	1年生による農業体験学習を年間1回実施します。	7月10日、ピーマンとトマトの収穫作業、出荷作業の体験実施	100

小田中学校	暮らし	環境委員会(生徒会)により、地域住民・事業所に対して年度当初に働きかけ、年間 500kg 以上のアルミ缶の回収を目指します。	地域の方の協力を得ると共に、学級で回収期間を設け、各学年努力して年間で 554kg を集めた。	100
	暮らし	牛乳パックを回収し、年間 50 ロール以上のトイレトーパーへのリサイクルの促進を目指します。	回収は 100%できた。	100
	環境教育	環境委員会(生徒会)による取組発表会を年間 1 回以上実施します。	達成している。	100
	環境教育	環境子ども会議に 1 年生全員が参加し、町内の活動について学習するとともに、保護者の参加を呼びかけます。	環境子ども会議に 1 年生全員が参加し、環境教育を進めることができた。	100
内子学校給食センター	自然	学校給食で使用する町内産食材の割合(重量ベース)を 50%以上とする。	学校給食で使用する町内産食材の割合(重量ベース)を 50%以上とできた。	100
	暮らし	廃食油すべてを BDF として活用する。	廃食油すべてを BDF として活用することができた。	100
	環境教育	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として毎月 1 回各学校に送付する。	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として毎月 1 回各学校に送付した。	100
小田学校給食センター	自然	給食の食材において、町内産野菜の使用率 75% (将来 100%) を目指します。	町内産野菜類の使用率 75%を目指していたが、気象条件や食材価格等の諸事情により 58%となり目標を達成できなかった。	77
	暮らし	廃食油を全て再活用していただくと共に、古くなり使用しない食器食缶等や食材の空缶を地域住民等に再活用してもらう。	配食油は全て再活用していただいたが、食材の空缶等の再活用が実施できなかった。	70
	環境教育	地域清掃活動に積極的に参加。環境に関する会合を年 5 回以上実施する。	地域清掃活動は積極的に参加し活動を行い、環境に関する会合を施設で年 5 回行った。	100
図書情報館	自然	館内に飾る花は、すべて町内の花を使用する。	館内に飾る花は、すべて町内の花を使用できた。	100
	自然	図書情報館の西側の花壇には、夏に緑のカーテンを 35 m <sup>2</sup> することで省エネ対策をし、それ以外の期間も花などを植えて心の安らぐ景観づくりに努める。	図書情報館の西側の花壇には、夏に緑のカーテンを 35 m <sup>2</sup> することで省エネ対策ができた。それ以外の期間も花を植えて心の安らぐ景観づくりに努めることができた。	100
	暮らし	雑誌のリユース率を 80%とする。	雑誌 597 冊のうち 511 冊が持ち帰られ、リユース率は 86%だった。	100
	暮らし	年間を通じてペットボトルのキャップ収集に協力する。	図書情報館利用者の協力があり、年間を通じてペットボトルのキャップ収集することができた。	100
	環境教育	エコロジーに関する資料を収集し、収集した資料等を年 1 回は広報等で知らせる。	広報等で知らせることができなかった。	0
	環境教育	学校等でのブックトークを通して、年 4 回以上は子どもたちへの環境教育資料をアピールする。	ブックトークの中で、環境教育資料を 4 回アピールした。	100

内子自治センター	自然	年2回以上センター主催の生涯学習のテーマとして環境を取り入れる。	特に環境に絞ったテーマ学習は未実施。	0
	自然	年2回以上水とふれあう青少年対象の事業の実施。	夏のふれあいキャンプは実施し、水とふれあいが出来たが段ボールカヌーについては西日本豪雨の影響により中止。	50
	暮らし	環境 NPO サン・ラブと協同して、地域住民に緑のカーテンの苗を80株以上配布し普及させる。	環境 NPO サン・ラブさんの苗を施設利用者に配布したが、緑のカーテンになったかどうかは不明。	50
	暮らし	緑のカーテンを事務室の窓全て(6.8m)で実施する。	事務室の日よけとして実施したが、均一に揃わなかった。	70
	環境教育	各自治会で自治会活動を通じて年1回以上環境教育を実施し、自然と景観への関心を高める。	各自治会において地域づくり事業の一環として花いっぱい運動を通し環境教育に努められた。	100
内子東自治センター	自然	自治センターが主催する事業において、環境保全に関する体験活動を年1回以上実施します。	実施できなかった。	0
	暮らし	緑のカーテンの苗を配布し、緑のカーテンコンテストに自治センター管内から1件以上応募を呼びかけます。	東自治センターの陶芸教室参加者から1件の応募があった。	100
	環境教育	センターだよりに、環境に関する記事を年1回以上掲載します。	6月号に石畳清流園で実施した水辺の生き物観察会の記事を掲載した。	100
大瀬自治センター	自然	第43回目となる「大瀬農業祭柿まつり」の成功に向けて、大瀬特産の柿などの特産品を町内外に広くPRする。特に町外のPRは3回以上実施する。また、地元で採れた果樹や農産物を中心とした軽トラ市を10台以上で実施する。	軽トラ市は10台の申込みを受けて開催し、町外PR活動については、協力店舗とのスケジュール調整に苦慮したが、2回実施することができた。	83
	暮らし	施設利用者に対して使い捨て容器の使用の自粛を啓発し、自粛率80%以上を目指す。	利用者に紙コップ、割り箸の使用を控えられるだけセンターのコップ、箸の利用を促した。(24/27で88.9%)	100
	環境教育	エコセミナー活動の内容をより充実させ、年14回開催する。活動を実施することにより、大瀬の子どもたちの環境に対する意識を高め、郷土愛を育てる。	雨天などによる中止があったが怪我等もなく、13回エコセミナーを実施することができた。	93
五十崎自治センター	自然	年1回以上環境学習会を、元気わくわく川まつり等のイベント開催時に実施する。	西日本豪雨災害の為、開催中止で実施する事が出来なかった。	-
	自然	年4回以上学習会の中で水中生物等に触れ、生態系で生物がどのように環境とつながっているのか、勉強していく。	水生生物観察会等を5回町内の子どもを対象に開催し、環境への影響がどのような形でつながっているのかを、勉強する事が出来た。	100
	暮らし	年1回以上肥料場で肥料を作り、自治センター周辺観光に活用する。	出来上がった堆肥はセンター周辺花壇に有効活用した。	100
	環境教育	年12回以上館報にて環境に関する記事を掲載していく。	掲載記事の関係から全てのセンターたよりに掲載する事は出来なかった。	30
小田	自然	スバル敷地内の落ち葉を堆肥化もしくは土に返し、堆肥については希望者に全て無料配布する。	目標通り、全ての落ち葉は土に返しゴミを削減した。	100

小田自治センター	自然	城の台公園の剪定した枝葉について、希望者全てに無料配布する。(動物園用エサ等)	目標通り、希望者全てに無料配布を行った。	100
	暮らし	図書貸し出しに伴う、本館・分館間での図書移動の際に使用する梱包材・緩衝剤は、図書購入時に同梱されている物を必ず再利用する。	目標通り、購入時の梱包材と緩衝材を利用した。	100
	暮らし	緑のカーテンを推奨するため、苗を希望者に50株以上配布する。	目標通り、「緑のカーテン」に必要な植物の苗を50株以上配布した。	100
	環境教育	自治センターだよりに環境に関する記事を年2回以上掲載する。	目標通り、自治センターだよりの6月号と2月号に環境に関する記事を掲載した。	100
	環境教育	小学生を対象に、エコに関する講座を年2回企画・実施する。	目標通り、4月に大瀬自治センターと共催でエコサイクリングを実施、8月にはペットボトルを使った工作教室を実施した。	100
社会福祉協議会	自然	食事等を準備する場合、地元業者を活用し毎回地元食材も取り入れて頂くように努める。	監査、分会役員会、ミニデイサービスの食事場所等地元業者を活用し地産地消を進めた。	100
	暮らし	ミニデイサービスの利用者に毎月の案内文書にエコバック利用促進について周知を行う(年12回)	毎月の案内文書には必ず明記して実施した。	100
	暮らし	家族介護用品配布時に処分する段ボール等については地元NPO団体に再利用していただくことで、古紙搬出量を減らすよう努める。	段ボールの処分については、該当する段ボール類は全て再利用していただくようお願いした。	100
	環境教育	年1回以上、ごみ分別等について、話し合う場を作り、ごみ出しのルールや現状について理解を深めていく。	五十崎地区のサロンでは、ゴミ出しに対する勉強会を促進。 生活支援体制整備事業で高齢者のゴミ出しについて地域課題の一つに取り上げ、自治会長、民生委員、見守り推進委員、老人会長らと地域の現状について話し合い関心を高めるよう図った。	30
みどり苑	自然	施設所有の畑を利用し、入所者・利用者・ボランティアが年間を通じて栽培した季節の野菜(玉ねぎ、ジャガイモ、スイカ、さつまいも等)を収穫し、施設用の食材として利用する。	入所者・利用者とともに栽培した野菜(玉ねぎ、ジャガイモ、スイカ、さつまいも等)、また、施設内の竹林で収穫したタケノコを施設の食材として利用した。	100
	暮らし	施設から排出される食用廃油の100%再利用化(石鹸・車用燃料)を図る。	NPO法人サン・ラブに、施設から排出される食用廃油のすべて回収してもらい、再利用化を図った。	100
	環境教育	施設発行のみどり苑だより(年4回発行予定)や家族会(年1回開催)を利用し、入所者・利用者・各家庭に対して、年2回以上みどり苑の環境への取り組みを周知する。	施設発行の「みどり苑だより」へグリーンカーテンの取り組みを掲載、また、家族会(年1回開催)において施設でのエコオフィスへの取り組みを紹介した。	60
神南荘	自然	厨房から出る廃食用油を地元NPO法人に回収いただき、全てBDF燃料として地域内使用にまわします。	左のとおり、廃食用油をBDF燃料として利用している。	100
	自然	厨房から出る残飯全てを地元農家に回収して頂き、飼料として使用して頂きます。	残飯等は、毎日、地元農家により、回収し、利用している。	100

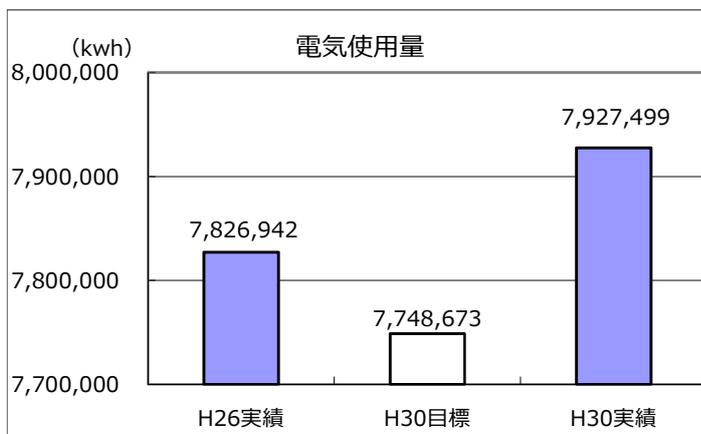
神南荘	暮らし	年間を通じて普通浴に古田鉱泉を利用しているが、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理を行うことで水道使用量を抑える。	配管、タンク等の維持管理を適切に行い、水道利用量を抑えている。	100
	暮らし	年間を通じて節電に努め、CO <sub>2</sub> 排出量を抑えます。	絶えず、節電に努めている。	100
	環境教育	営業で来荘になる業者にアイドリングストップを呼び掛けるとともに、搬入資材はすべて持ち帰っていただきます。又、“施設へ出入りされる業者の皆様へ（お願い）”のチラシを配布します。	出入り業者へのアイドリングストップ等、環境への配慮を促している。	100
	環境教育	毎朝の朝礼で最低月1回、毎月の職員会で4回以上エコオフィスの推進を呼びかけます。	職員会等で、エコオフィス推進の呼びかけを実践している。	100
小田の郷せせらぎ	自然	トイレ側の通路に、地元で購入した花苗で6㎡のグリーンカーテンを設置する。	トイレ側の通路に、生産者が出荷したゴーヤ苗を購入し植栽した。また店舗前には、お客様から頂いた西洋朝顔の苗を植栽した。	100
	暮らし	年間を通してお客様や生産者に対し、エコバッグやマイ箸の協力をして頂けるよう呼びかけをし、またPOP等でも周知を行う。	年間を通じて、エコバッグの協力依頼のPOPをレジ前と、生産者が利用するバーコード室に貼って周知し、また職員がお客様には呼び掛けを行った。	100
	環境教育	全ての業者に対し、搬入時の梱包資材を持ち帰って頂くよう職員が呼び掛け、周知に努める。	納品時に、可能な商品については中身を出し、不要な資材は全て持ち帰っていただいた。また持ち帰れなかった段ボールについては、荷物の発送に再利用したり、花苗購入時のレジ資材に利用した。	100
内子フレッシュパークからり	自然	毎月実施の環境整備の日に施設内の美化、点検を行う。	毎月開催の環境整備では、駐車場の整備を行ったり、川の土手の草刈り等を行った。	100
	自然	四季を通じて周辺環境である小田川沿いの美化に努める。	からり対岸の土手の倒木処理や竹を整理した。	100
	暮らし	ゴミ分別の再徹底を図る。(年6回以上声かけ等行う) 飲食部門に特に呼びかける。毎月開催の主任会時に意識の徹底を呼びかける。	お客様の利用したごみ箱内の分別をほぼ毎日行った。飲食部門や主任会時での呼びかけは年度当初は行ったが、繁忙期にはいと日常業務に追われ、なおざりになってしまった。	50
	環境教育	年間を通じ、小田川の生物紹介、内子町周辺の動植物の紹介等を継続的に行う。	店舗改築が2018.11月より2019.3月まで行われたため紹介するための掲示物等は撤去せざるをえず、初秋までの展示となった。	80
	環境教育	年2回以上内子町の食文化の紹介等を行う。	食文化紹介は、店内販売の食品等の説明時に随時行った。	100

## 4 内子町エコオフィスプラン

### (1) 取組内容

内子町では、「内子町エコオフィスプラン」を作成して地球温暖化防止に向けた環境に優しいオフィスづくりに取り組んでいます。このエコオフィスプランは、「エコロジータウン」を掲げて様々なまちづくりを進めるにあたって、まずは、役場や学校などの施設で働く職員が、自ら率先して環境保全のための取り組みを実践しようという計画です。平成 28 年度には、第 4 次エコオフィスプランとし新たな 5 か年計画の取組をスタートさせています。

### (2) 取組結果



項目：電気使用量

目標→26 年度実績比 1%減

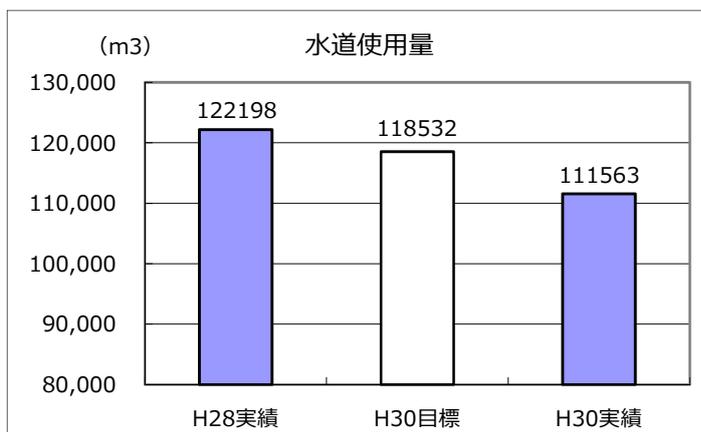
結果→1.3%増 (×)

考察：

各部署で節電に力を入れて取り組みましたが、平成 29 年度の電気使用量の合計は 7,927,499kwh で 1.3%増加となり目標を達成する事ができませんでした。

昨年度比で 1%減少したものの小中学校へのエアコンの導入や 7 月豪雨の影響により目標値を超える結果となりました。

今後もエアコンの使用については適正温度を守り、クールビズやウォームビズの実施をお願いします。また、LED 電球への切り替えや、機器更新の際には省エネ機器等の導入の検討をお願いします。



項目：水道使用量

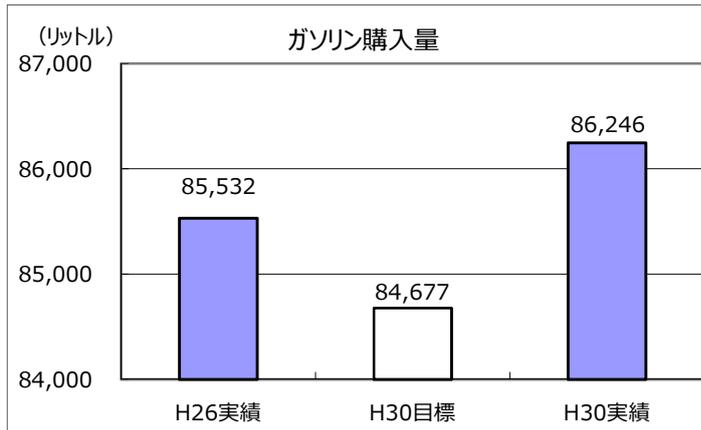
目標→28 年度実績比 3%減 (32 年度までに)

結果→8.7%増 (○)

平成 28 年度の実績を基準年度の数値とします。

平成 30 年度は深山荘の廃止により使用量が減少した。また、保育園、小中学校、給食センター、自治センターにおいて減少傾向がみられました。

限りある水資源を有効利用すると共に公共用水域の水質汚濁防止に関わる事なので、必要以上の水道の使用については、削減をお願いします。



項目：ガソリン購入量

目標→26年度実績比 1%減

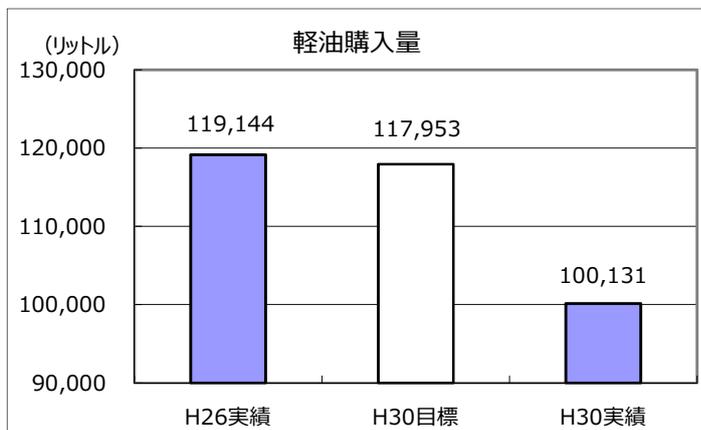
結果→0.8%増 (×)

考察：

主に公用車の燃料として使用されています。

走行距離を見てみると、平成 26 年度が 858,294 km であったのに対し平成 30 年度は 894,899 km と増えています。また、ガソリン車が増えたことも増加につながっています。

今後も、近距離（およそ 500m～1km 程度）の移動方法に徒歩や自転車の選択を継続するとともに、アイドリングストップ等のエコドライブや低燃費車の導入などにより、少しでも削減できるよう取り組みをお願いします。



項目：軽油購入量

目標→26年度実績比 1%減

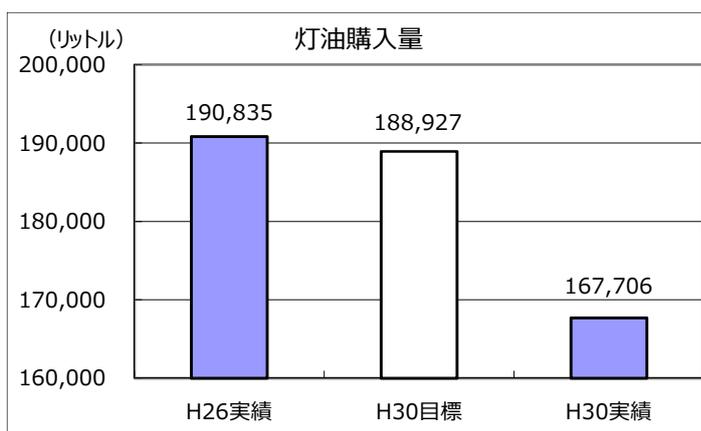
結果→16.0%減 (○)

考察：

主に公用車や降雪機等の燃料として使用されています。

平成 30 年度は降雪機等に係る使用量の減少が目標の達成につながっています。

今後も、エコドライブの実施や車内の冷暖房管理などの取り組みを継続し、低燃費車の導入などにより少しでも削減できるよう取り組みをお願いします。



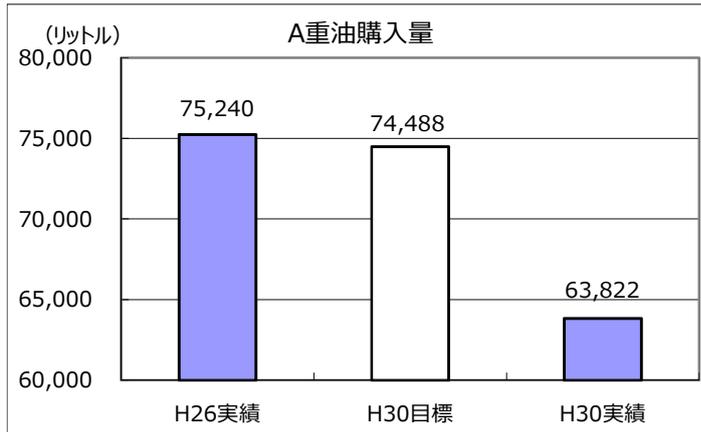
項目：灯油購入量

目標→26年度実績比 1%減

結果→12.1%減 (○)

考察：

主に施設の冷暖房やクリーンセンターの助燃材に使用されています。平成 30 年度は、クリーンセンター、ソルファ・オダや藤華苑での使用が減少したことにより灯油の使用量が減少しています。今後も無理のない範囲で適正な室温管理を継続して行うとともに、バイオマス機器の導入についても検討をお願いします。



項目：A 重油購入量

目標→26 年度実績比 1%減

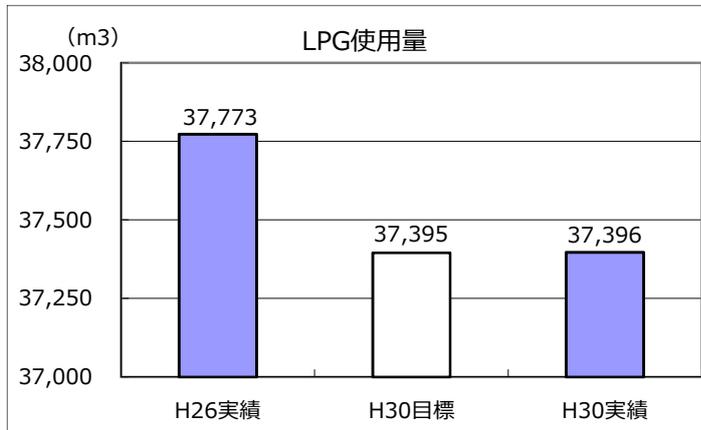
結果→15.2%減 (○)

考察：

主に給食センターや指定管理施設の給湯器や空調機の燃料として使用されています。

平成 30 年度は、ほぼすべての施設において使用量が減少したことが目標の達成につながっています。

今後も適切な使用を継続してお願いします。



項目：LPG 購入量

目標→26 年度実績比 1%減

結果→1.0%減 (○)

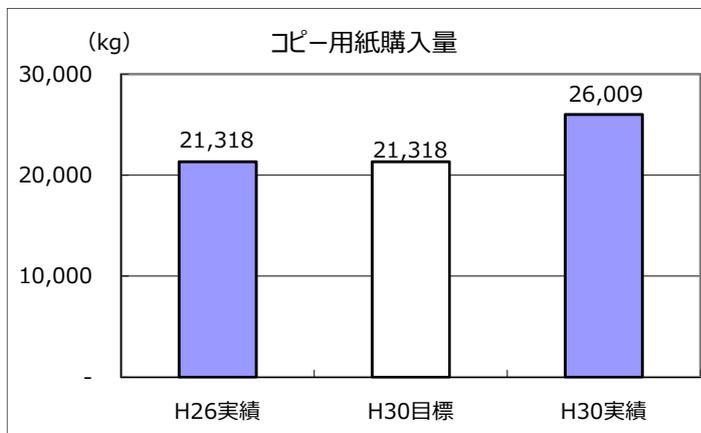
考察：

主に調理や給湯に使用されています。

食事のメニューや、事業の増減に伴って使用量が変わります。

平成 30 年度は、主に指定管理施設の削減により目標が達成できています。

洗い物などに給湯を利用するときは、適切な使用を継続してお願いします。



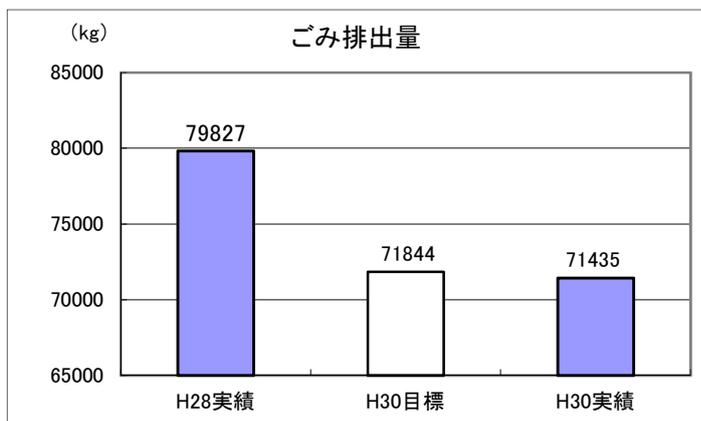
項目：コピー用紙購入量

目標→26 年度実績比 0% (現状維持)

結果→22.0%増 (×)

考察：

電子データで送付される文書が増え年々大きく増加しています。また、新規事業等で使う紙の量が増え、増加傾向となっている施設もあります。今後も「無駄なコピーをしない」「使った紙の裏面は必ず再利用」「両面使った紙はリサイクル」を継続する事が必要



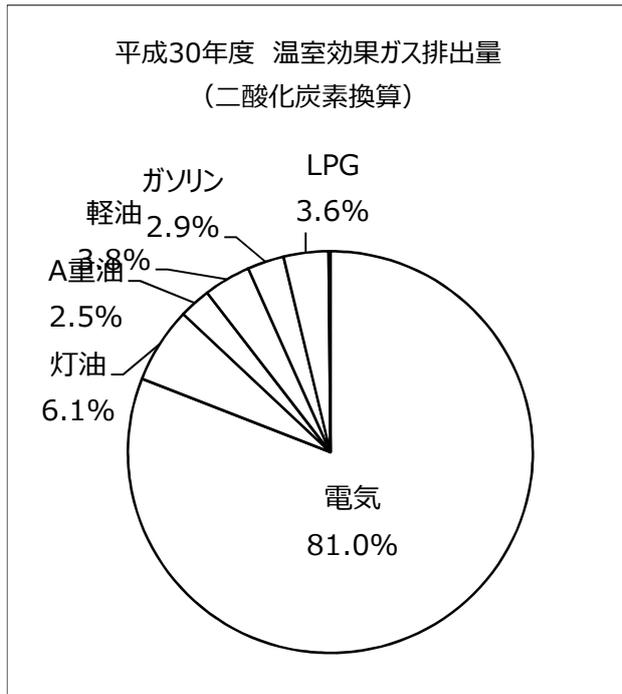
項目：ごみ排出量

目標：28 年度実績比 10%減 (32 年度までに)

結果→10.5%減 (○)

平成 28 年度の実績を基準年度の数値とします。

今後もリサイクル可能な紙ごみの分別、私的なごみは出さない・持ち帰りを徹底するなどの取り組みの継続をお願いします。



項目：温室効果ガス排出量  
 目標→26年度実績比 1%減  
 結果→0.9%減 (×)  
 考察：  
 平成30年度の温室効果ガスの排出量は、電気使用量で1.3%、ガソリン購入量で0.8%、公用車走行距離で9.4%増加となりました。温室効果ガスの排出の8割を占める電気使用量において、温室効果ガスの排出が約70t増加したことが目標を達成できなかった大きな要因として挙げられます。  
 温室効果ガスの排出を削減するには、設備の更新の際にバイオマスを利用する設備や省エネ・高効率の設備を導入するほか、創エネにつながる再生可能エネルギー設備の導入も推進することが重要となっています。  
 事業活動に影響され削減が難しい項目もありますが、比較的取り組みやすいことから削減に向けた取り組みの継続をお願いします。

※平成30年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,927,499 kwh	0.699	1	5,541,322 kg-CO <sub>2</sub>
灯油購入量	二酸化炭素	167,706 リットル	2.49	1	417,587 kg-CO <sub>2</sub>
A重油購入量	二酸化炭素	63,822 リットル	2.71	1	172,958 kg-CO <sub>2</sub>
軽油購入量	二酸化炭素	100,131 リットル	2.58	1	258,338 kg-CO <sub>2</sub>
ガソリン購入量	二酸化炭素	86,246 リットル	2.32	1	200,090 kg-CO <sub>2</sub>
LPG使用量	二酸化炭素	37,396 m <sup>3</sup>	6.55	1	244,947 kg-CO <sub>2</sub>
公用車走行距離	メタン	1,320,402 km	-	21	9,985 kg-CO <sub>2</sub>
	一酸化二窒素		-	310	
					6,845,227 kg-CO <sub>2</sub>

※平成26年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,826,942 kwh	0.699	1	5,471,032 kg-CO <sub>2</sub>
灯油購入量	二酸化炭素	190,835 リットル	2.49	1	475,179 kg-CO <sub>2</sub>
A重油購入量	二酸化炭素	75,240 リットル	2.71	1	203,900 kg-CO <sub>2</sub>
軽油購入量	二酸化炭素	119,144 リットル	2.58	1	307,392 kg-CO <sub>2</sub>
ガソリン購入量	二酸化炭素	85,532 リットル	2.32	1	198,434 kg-CO <sub>2</sub>
LPG使用量	二酸化炭素	37,773 m <sup>3</sup>	6.55	1	247,413 kg-CO <sub>2</sub>
公用車走行距離	メタン	1,213,692 km	-	21	9,123 kg-CO <sub>2</sub>
	一酸化二窒素		-	310	
					6,912,473 kg-CO <sub>2</sub>

## 5 内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”

### (1) 取組内容

内子町では、平成 18 年度に「環境自治体スタンダード (LAS-E : ラス・イー)」という認証制度を取り入れ、認証を取得してきましたが、平成 29 年度には、LAS-E をベースにした内子町独自の環境マネジメントシステム“うちエコ”を構築し、運用を開始しました。LAS-E の最高レベルである第 3 ステージの認証取得をし、LAS-E II というより自治体の独自性を高めた規格に取り組んだ今、内子町の強みを伸ばしながら弱い部分の補強をしつつ、さらなる環境政策のレベルアップをめざしていきたいと考えています。なお、LAS-E の特徴として、住民参加のもとで環境政策に取り組む仕組みや目標を確立・運用させること、政策の中身だけでなく住民参加の質を問うこと、などが挙げられますが、こうした住民参加の視点は、これまで同様うちエコの中でも取り組んでいきます。

内子町では、「第 4 次内子町エコオフィスプラン」(平成 28 年度～平成 32 年度)や「第 2 次内子町環境基本計画」(平成 27 年度～平成 36 年度)を策定し、各種施策を展開していますが、これらの計画を効率的かつ効果的に推進するための進行管理を、この環境マネジメントシステムによって行います。

### (参考)

#### 「環境自治体スタンダード LAS-E(ラス・イー)」

環境配慮や環境政策に取り組むためのしくみを、自治体が確立・運用し、その取り組み内容が環境自治体としてふさわしいかどうかをチェックするために、環境自治体会議が開発した基準。自治体固有の特製に合わせて作られた認証制度ということもできる。(「LAS-E による環境マネジメントシステム構築ガイド」より)

### LAS-Eに関する取組概要

- 1992 年 環境自治体会議が発足、加入
- 2001 年 内子町エコオフィスプラン策定(内部監査の実施)
- 2005 年 環境自治体会議うちこ会議の開催
- 2006 年 内子町環境基本計画策定→LAS-Eの導入
- 2006 年 第 1 ステージ合格(12 月 20 日)
- 2009 年 第 2 ステージ合格(12 月 28 日)
- 2011 年 LAS-E規格改定
- 2012 年 第 3 ステージ合格(12 月 27 日)
- 2015 年 LAS-E II 試行、規格改定
- 2016 年 LAS-E II レベル判定

## (2) 監査結果

今年度の監査の内容は以下のとおりです。

### ①各監査（エコ見回り及びエコ・コミュニケーション含む）の日程及び内容

監査	日程	内容	対象 部署数
子どものエコ見回り隊	①平成 30 年 12 月 7 日（金）	電気、水、ごみ等の環境に関する取組状況の確認	8
	②平成 30 年 12 月 19 日（水）		1
	③平成 31 年 1 月 7 日（月）・8 日（火）・10 日（木）・15 日（水）		4
	④平成 31 年 2 月 26 日（火）		1
大人のエコ見回り隊	平成 31 年 1 月 24 日（木） ～1 月 25 日（金） ほか	電気、水、ごみ等の環境に関する取組状況及び職員の環境意識の確認	19
政策監査	平成 30 年 11 月 26 日（月） ～11 月 28 日（水） ほか	独自目標の達成見込み、環境基本計画推進状況の確認、職員の環境意識の確認、うちエコ規格の確認、ほか	25
エコ・コミュニケーション	平成 30 年 11 月 26 日（月）	事業所での取組確認、ほか	1

子どものエコ見回り隊では、昨年から、うちエコ対象部署以外の民間事業所等へエコ見回りに出かけていますが、今年は園からの希望もあり、町内の商店など、見回りか所が広がりました。それぞれの事業所で取り組んでいることを聞くことができ、今後のエコの取組拡大がますます期待できるようです。

大人のエコ見回り隊では、広報等を通じて公募を行い、9 名の方に登録をいただきました。エコ見回り隊を通じて、内子町の取組の周知を図るとともに、家庭への取組へと波及していくことを期待しています。

政策監査では、初めての試みとして、“エコ・コミュニケーション”と題し、町内の事業所に訪問して環境配慮の取組の聞きとりしました。監査の方法としては試行錯誤をしている段階ですが、うちエコを通じて環境保全への取組が町内へと広がっていくよう、今後も推進していきます。

また、例年のように、町の新規採用職員 5 人が環境研修の一環として、監査に参加しました。

㊦子どものエコ見回り隊

	園・学校名	見回り先
①	内子小学校	内子自治センター、内子町図書情報館、内子児童館、ビジターセンター、町並保存センター、（公財）内子町国際交流協会、NPO 法人環境 NPO サン・ラブ、内子町商工会内子本所
②	五城保育園	内子東自治センター
③	内子保育園	伊予銀行内子支店、JJ 旅行センター、かつ盛り鮮魚店、内子町づくり商店街協同組合、内子ビジターセンター
④	こぼと保育園	本庁のトイレ（水回りチェック）

※子どものエコ見回り隊の目的及び期待される効果

- ・園児や児童の観察力や発表力の向上、公共の場における礼儀作法や社会性の習得
- ・役場職員の幼児の目線でチェックされることによる環境意識の一層の向上
- ・エコオフィス部分の監査の一環と位置付けていますが、評価の対象とはしません。

■子どものエコ見回り隊の様子





### ①エコ・コミュニケーション

うちエコに賛同いただく参加される事業所等では、取組目標を定め、実践をしていただきます。エコ・コミュニケーションにおいて、その取組状況やそれぞれの事業所等における環境への取組について聞き取りし、広く知らせていくこととしています。

#### ■平成 30 年度賛同事業所

	事業所名	うちエコ実践内容	環境への取組状況
1	丸三産業株式会社 五十崎工場  <a href="http://www.marusan-sangyo.co.jp/">http://www.marusan-sangyo.co.jp/</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の環境美化活動に参加</li> <li>・地域の方に環境配慮等に関するモニターになっていただき、モニター見学を実施</li> <li>・内子町と締結している公害防止協定書を遵守し、月 1 回水質検査を行い、町へ報告</li> <li>・廃棄物を RPF（ペレット燃料）にし、産業廃棄物の燃料化することで、CO2 削減と再生エネルギーの創出に取り組む。</li> <li>・省エネパトロールを実施</li> <li>・環境への取組状況について公表</li> </ul>	<p>・各種認証取得：品質マネジメントシステムに関する国際規格「ISO9001」、環境マネジメントシステムに関する国際規格「ISO14001」の認証を取得。米国科学財団（National Science Foundation）による様々な製品に対する公衆衛生・安全に係る基準に適合する旨の証明書を取得しています。300種類以上の有害化学物質が対象となる厳しい検査基準をクリアした製品のみで与えられる、世界トップレベルの安全な繊維製品の認証。オーガニック原料を含む製品（食品を除く）の認証に対応。認証製品としての販売には、原料から製品ができるまでの全工程での認証取得が必要です。オーガニックテキスタイルのための GOTS 認証に対応しています。要求事項に対する審査を通過した最終製品には G O T S ロゴを表示することができます。</p>



エコ・コミュニケーションの様子

② 監査種類別設問別集計結果と所見

ア 政策監査

ア-① 推進本部及び実行部門集計結果

設問 No.	設問内容	☆	◎	○	△	×	／	-	☆・ ◎・ ○の 数 (a+b+ c) =(f)	算定対 象数 (該当無 し除く) (a+b+c+ d+e) =(g)	設問 別 達成 率 ( f / g )
		大 変 良 い (a)	良 好 (b)	取 り 組 め て い る (c)	改 善 要 望 事 項 (d)	勸 告 事 項 (e)	該 当 な し	質 問 せ ず			
1	町長／協議と指示			1					1	1	100%
2	町長／環境基本計画の指示			1					1	1	100%
3	町長／監査方法の改善			1					1	1	100%
4	副町長／定期的協議			1					1	1	100%
5	副町長／エコオフィスの推進			1					1	1	100%
6	教育長／教育での取り組み(子ども)			1					1	1	100%
7	教育長／教育での取り組み			1					1	1	100%
8	独自目標の内容と達成見込み		6	14					20	20	100%
9	独自目標の改善			20					20	20	100%
10	町民との連携の状況	1	7	12					20	20	100%
11	施設への環境配慮		1	17			2		18	18	100%
12	指摘事項の改善			6		1	13		6	7	86%
13	環境基本計画の内容と実施状況			9			11		9	9	100%
14	その他の取り組み(職場)	1	5	14					20	20	100%
15	環境方針の認知			19	1				19	20	95%
16	地域環境への関心		1	19					20	20	100%
17	研修受講の確認			19	1				19	20	95%
18	取り組みの実施状況		2	18					20	20	100%
	合計(事務局分除く)	2	22	174	2	1	26		198	201	99%

㊦-②事務局結果

設問 No.	設問内容	☆	◎	○	△	×	／	-	☆・ ◎・ ○ の数 (a+b+c) =(f)	算定対 象数 (該当無 し除く) (a+b+c+ d+e) =(g)	設問別 達成率 ( f / g )
		大 変 良 い (a)	良 好 (b)	取 り 組 め て い る (c)	改 善 要 望 事 項 (d)	勧 告 事 項 (e)	該 当 な し	質 問 せ ず			
1	基本方針の理解・実践			1					1	1	100%
2～3	環境に関する定期的研修			2					2	2	100%
4	首長との協議			1					1	1	100%
5	目標達成状況の公開			1					1	1	100%
6	指摘事項の改善			1					1	1	100%
7～8	全般		1	2					3	3	100%
9～12	システム全般			4					4	4	100%
	合計		1	12					13	13	100%

㊦-③総合所見

今回の政策監査では、24 部署（推進本部及び事務局含む）で実施しました。その結果、大変良い（☆）が2個、良好（◎）が21個あった一方、改善要望事項（△）は2個、勧告事項（×）は1個ありました。

今回の政策監査から評価の方法が変わり、これまでの“◎”を“☆”で表現し、“○”の評価を“◎（取組が良好である）”と“○（取り組んでいる）”の2段階に分けて評価することとしました。この理由は、優れた取組（☆）とまでは評価できないものの、通常取組よりも熱心に取り組まれている部署や項目に対し、同じ“○”という評価では物足りないという、これまでの監査での意見を踏まえて2段階の評価に変更したものです。

平成30年度において、住民との協働や広がり重点をおき、監査に臨むこととしましたが、優れた取組には、地域住民等と一緒に活動する視点を持ちながら計画をたて、地域住民等とともに実践している事例が挙げられました。例えば、石畳小学校の保護者や地域とのスムーズな連携のもとで環境保全や環境教育に取り組み、さらには環境を超えて安全教育・防災教育にも発展している事例などです。多くの部署で、地域との連携が進む一方、良い取組ではありながら、部署の中だけで完結している部署も見受けられましたので、地域との協働に向けた今後の広がりを期待します。

また、会計課では、なかなか環境政策との接点が見いだせない職場にも係わらず、職員が環境に関する情報をキャッチし、それを職場で定期的に共有する機会を設けられておられました。環境に積極的に関わろうとする職員の意識の高さを大いに評価したいと思います。今後の継続と、さらには会計課からの情報発信にも期待したいと思います。

昨年度の政策監査では、改善要望事項(△)が5つ、勧告事項(×)が1つという結果でしたが、今年度は実行部門での△が2つ、×が1つという結果になりました。△については、部署内での情報共有が徹底されていないことが原因での評価となりました。今一度、見直しをしていただくようお願いします。さらに×の評価は、指摘事項の改善における評価であり、非常に残念な結果となりました。職員の異動などで引き継ぎが難しい面もありますが、自身の部署がどのような取組状況にあるのかを認識いただき、継続・改善に努めていただければと思います。

今年度の新たな取組としては、初めてジャンプステージの現場監査が行われたことが挙げられます。実施内容については改善の余地がありますが、ひとまずは行政や教育機関からの広がり第一歩として成果を出せているのではないかと思います。町内の事業所では、それぞれの事業成果に対する目標に加えて、環境配慮に関する目標を立て実施している事業所もあり、今後は、それらの目標がエコロジータウン内子のまちづくりという行政の目標とマッチングしていくことを考えるなど、共通の意識のもとで取組が推進されることを期待します。また、保育園については、平成29年度から別の形態での監査実施が進められておりますが、保育と環境を結び付けながらの取組が推進されており、さらなる深まりを期待します。

この政策監査では、エコオフィスから環境政策推進の視点に重点を移行しながら監査を実施していますが、質問内容にももう一工夫が求められるのではないかと思います。目標設定・実行・監査・改善と、一連の流れを考えながら監査員と事務局が共通理解のうえで、内子町の環境政策がこのマネジメントシステムのもと、ますます推進されていくことを期待します。

#### ■ 政策監査の様子



① 大人のエコ見回り隊

①-①集計結果

設問 No.	設問内容	☆	◎	○	△	×	／	-	☆・◎・○ (a+b+c) =(f)	算定対象数 (該当無し除く) (a+b+c+d) =(g)	設問別 達成率 (f÷g)
		大変 良い (a)	良好 (b)	取り 組め てい る (c)	改善 要望 事項 (d)	勸告 事項 (e)	該 当 な し	質 問 せ ず			
1	取組の実施や工夫 (組織)	6	9	3					18	18	100%
2	外部への環境配慮要請	6	8	4					18	18	100%
3	エネルギー使用量・ごみ 排出状況等現状把握	2	4	12					18	18	100%
4	環境方針の認知	2	7	9					18	18	100%
5	研修受講の確認		10	6	2				16	18	89%
6	取組の実施や工夫 (個人)	4	4	9	1				17	18	94%
7	電気の点灯状況		1	17					18	18	100%
8	水まわりの状況		1	17					18	18	100%
9	紙・ごみの分別状況	1	4	10	3				15	18	83%
	合計	21	48	87	6	0	0	0	156	162	96%

①-②総合所見

平成30年度の大人のエコ見回り隊は、18部署で実施しました。その結果、優れた取組事項(☆)が21項目、良好な取組事項(◎)が48項目となる一方、改善要望事項(△)が6項目、勸告事項(×)はありませんでした。

今年度より、評価の方法を見直し、政策監査と同様、これまでの“◎”を“☆”で表現し、“○”の評価を“◎(取組が良好である)”と“○(取り組んでいる)”の2段階に分けて評価することとしました。この理由は、優れた取組(☆)とまでは評価できないものの、通常の取組よりも熱心に取り組まれている部署や項目に対し、同じ“○”という評価では物足りないという、これまでの監査での意見を踏まえて2段階の評価に変更したものです。

優れた取組には、例年同様、部署内での各種環境への取り組みはもちろんのことながら、それらを施設の利用者などへ広げようとする取組、さらには利用者や地域住民らと一緒に活動する取組も多く、エコオフィスにとどまらないすばらしい取組が多く見られました。例えば、内子児童館では利用者の方もごみ分別ができるような表示の工夫がされていたり、図書情報館ではエコのコーナーが設けられ、利用者に積極的に内子町のエコの取

組をPRする工夫がされていたり、内子フレッシュパークからりでは、掲示物に工夫を凝らし、エコへの協力体制をとりやすい工夫をしたりなど、様々な部署での工夫が随所に見られました。さらに、内子幼稚園では、取組の現状をあえて子ども達に伝え、一緒になって考えることでまた新たなエコの取組が生まれ、立川小学校では環境への取組が様々な分野で表彰を受け、それを地域に伝える事でまた協力体制がとれるといった、好循環の構図が生まれていました。

また、昨年度のエコ見回り隊では、改善要望事項(△)が7項目、勧告事項(×)が1項目でしたが、今回はそれぞれ減少し、勧告事項はありませんでした。内容は、研修の受講について、内容が把握できていなかったり、リサイクル可能な紙ごみが可燃ごみに混じっていたりと、こちらも例年同様の内容でした。昨年と比較すると多少改善されてはいますが、再度、これらの内容について、各部署でも取組内容を確認していただくとともに、事務局にも周知を図ることを要望いたします。

大人のエコ見回り隊に参加いただいた方々からは、環境面での取組など勉強になることが多く家でも取り組んでいきたい、今回の参加で改めてエコ活動の大切さを再確認でき、この経験を生かして生活を見直していきたい、といったご意見をいただきました。エコ見回りを通じて、さらに家庭へもエコの取組が広がっていくことを期待します。また、評価の方法については、5段階評価になったことで、評価しやすかったという意見を多くいただきました。事務局には、評価する側もされる側も、ともに納得のいく評価の方法について、今後も柔軟に見直していただくようお願いいたします。

今年は「大人のエコ見回り隊賞」を設けることとし、2つの部署を推薦しました。こうした制度を設けることで、素晴らしい取組が自信をもって取り組まれることを期待するとともに、環境の好循環がさらに広がっていくことを期待します。

#### ■大人のエコ見回り隊の様子



※うちエコ対象部署 監査実施象部署一覧

(子ども:子どものエコ見回り隊・大人:大人のエコ見回り隊・政策:政策監査)

No.	部署等名	子ども	大人	政策	No.	部署等名	子ども	大人	政策
1	町長	○		○	34	立川幼稚園			
2	副町長	○		○	35	五十崎幼稚園			
3	教育長			○	36	小田幼稚園			○
4	総務課	○		○	37	内子小学校			○
5	会計課	○		○	38	大瀬小学校			○
6	住民課	○	○		39	立川小学校		○	
7	うちこ福祉館		○		40	石畳小学校			○
8	参川福祉館				41	五十崎小学校			
9	税務課	○		○	42	天神小学校		○	
10	保健福祉課	○	○		43	小田小学校			
11	地域医療・健康増進センター	○	○		44	内子中学校		○	
12	建設デザイン課	○		○	45	大瀬中学校			
13	環境政策室	○	○		46	五十崎中学校			○
14	内子総合窓口センター			○	47	小田中学校			
15	町並・地域振興課			○	48	内子給食センター		○	
16	八日市・護国町並保存センター	○			49	小田給食センター			
17	ピジターセンター	○	○		50	図書情報館	○	○	
18	産業振興課(農業委員会・農村支援センター含む)			○	51	内子自治センター	○	○	
19	学校教育課			○	52	内子東自治センター	○		
20	自治学習課		○		53	大瀬自治センター			
21	議会事務局		○		54	五十崎自治センター			○
22	小田支所			○	55	小田自治センター			○
23	内子保育園			○	56	社会福祉協議会		○	
24	五城保育園			○	57	みどり苑			
25	大瀬保育園			○	58	神南荘			○
26	こばと保育園				59	内子フレッシュパークからり		○	
27	くるみ保育園				60	小田の郷せせらぎ			○
28	石畳へき地保育園			○	61	事務局			○
29	内子町子育て支援センター					<b>うちエコ対象数</b>	<b>16</b>	<b>18</b>	<b>24</b>
30	内子児童館	○	○		1	丸三産業株式会社 五十崎工場			○
31	五十崎児童館きらり			○	2	子どものエコ見回り隊 での民間事業所	7		
32	障害者地域活動支援センターかいと			○		<b>うちエコ対象外数</b>	<b>7</b>	<b>0</b>	<b>1</b>
33	内子幼稚園		○			<b>合計</b>	<b>23</b>	<b>18</b>	<b>25</b>

㊦ 独自目標評価結果（監査実施日：令和元年6月25日）：実施次第掲載

うちエコの視点 ・エコアクション（A：環境活動） ①ホップ ④ステップ ⑦ジャンプ  
 ・エコマネジメント（M：環境経営） ②ホップ ⑤ステップ ⑧ジャンプ  
 ・エコガバナンス（G：環境自治） ③ホップ ⑥ステップ ⑨ジャンプ

区分	目標	達成状況	うちエコ	
			視点	評価
A103	電気使用量を、平成26年度と比較して1%以上削減します。		①	△
A104	ガソリン使用量を、平成26年度と比較して1%以上削減します。			
A105	軽油使用量を、平成26年度と比較して1%以上削減します。			
A106	温室効果ガスの排出量を、平成26年度と比較して1%以上削減します。			
A107	公共事業における省エネルギーに関する環境配慮率を70%以上にします。			
A108	紙ごみの分別率を100%にします。（リサイクル可能な紙ごみを可燃ごみに入れないようにします。）			
M109	環境に係る集合研修を年1回、部署別（施設単位含む）研修を年2回以上開催します。			
M114	ホップステージの取組目標や実施項目、実施内容について、年1回監査を実施します。			
G104	環境に関連する情報を、広報及びHPで年22回以上提供します。		③	○
A205	内子町環境基本計画 3つのシンボルプロジェクトについて事業達成度を示す指数及び数値目標を見直し、その達成率を70%とします。		④	×
A206	内子町環境基本計画に関連した独自の数値目標を各部署で設定・実施し、その達成率を90%とします。			
M206	内子町環境マネジメント推進本部会議を年2回開催し、評価・見直しを行います。		⑤	○
M207	ステップステージの取組目標や実施項目、実施内容について、年1回監査を実施します。			
G203	環境に関する施策・事業について、町民との直接の意見交換会を年15回以上実施します。		⑥	○
A302	うちエコに賛同し実践する事業所等を1つ以上設け、公表します。		⑦	○
A305	エコロジータウン内子のまちづくりを推進するため、環境団体等が主体となって勉強会を年1回開催します。			
A307	えひめAI-1の利用促進を図るため、環境団体の主催で農業分野における実践活動を他団体と連携して1つ行います。			
A308	環境団体の主催で、環境に関する実践活動を、他団体と連携して12回以上開催します。			
M303	事業者や団体等の情報交換の場を、年1回設けます。			
M305	ジャンプステージの取組目標や実施項目、実施内容について、年1回監査を実施します。		⑧	○
G302	町民・事業者や団体、自治会等の環境への取組について、年1回は広報で紹介するとともに、年次報告書に掲載し、年1回公表します。		⑨	○
G303	住民、団体等による主体的な活動を4つ以上サポートします。			

※ 達成状況：○＝達成、×＝未達成 ※ 評価：○＝良好、△＝改善要望、×＝勧告

## 【総合所見】

全体として、9つの視点の内、○（良好）は7つ、△（改善要望）が1つ、×（勧告）が1つという結果になりました。

○以外の評価について、まず、ホップステージエコアクションの視点（視点①）を△の評価としました。昨年度と同様、エネルギー使用量に関する3つの目標（電気使用量・ガソリン使用量・温室効果ガス排出量）において目標達成できなかったことに加え、紙ごみの分別率についても目標達成できなかったことによるものです。電気やガソリンの使用量が伸びたことの原因は、設備の増加に伴うものや、気象条件（豪雨・酷暑）によるものが主な理由でした。ガソリンの使用量において、ガソリン使用量の伸び率に対し、走行距離の伸び率が高く、車両の更新時に燃費の良い車両に交換できていたり、エコドライブが推進できていたりするのではないかと推察できます。さらに、温室効果ガスの排出量においては、1.0%削減の目標達成はできなかったものの、0.97%の削減と、もう少しで目標達成できる内容でした。このことから、最終的な判断材料となる温室効果ガスの削減目標は達成できなかったものの、それにせまる内容であることから、△の評価としました。しかしながら、紙ごみの分別については日頃の職員の行動により改善できるもので、2年連続で目標達成できておらず、再度、認識確認を強く要望します。

なお、エネルギー関連の評価においては、監査員の評価の判断材料となるよう、設備や器具の数量や更新内容、また車両においては走行距離についても比較できる資料の提出を求めます。

次に、×の評価としたのは、ステップステージエコアクションの視点（視点④）です。エコオフィスに取り組む各部署において、環境基本計画に関する独自目標を設定・実施している目標が達成できた一方、環境基本計画そのものの目標達成ができなかったことは、昨年度に引き続き、誠に残念な結果です。また、年々目標のレベルが上がっているとはいえ、達成率は年々下がっており、自ら立てた目標に対し、エコロジータウン内子を推進する根幹の計画がこのような実施状況であることは、反省すべき点が多くあるのではないかと考えます。今年度は、前期計画の最終年度であり、次の5年間の実践目標を立てる重要な年度です。達成できる目標を立てるのが良いのでは決してありませんが、それぞれの部署が関連する環境政策を積極的に推進し、胸をはってエコロジータウンのまちづくりをしていると言えるような目標が立てられるよう、期待しています。

その他の7つの視点では、○の評価となりました。とりわけ、ジャンプステージのエコマネジメントの視点（視点⑧）は、昨年度×の評価でしたが、“うちエコ”の大きな目標の一つである住民や事業者等に環境への取組を拡大していくという視点において、取組事業所ができ、監査を実施したことは大きな一歩です。ますますの拡大が期待されることです。また、取組事業所等が、“うちエコ”にともに取り組むことで環境配慮への士気が高まるような仕組みがあるとよいのではないかと考えます。

平成30年度は“うちエコ”という内子町独自の規格に移行して2年目を迎え、少しずつ新たな取組が見られてきました。とは言え、俯瞰的にまちを見てみると、環境政策の推進においては、ひと頃のような盛り上がりは見えないように感じます。エコロジータウン内子というキャッチフレーズのもとにまちづくりを進めていくうえで、この理念が失われないよう、住民とともにまちづくりが進められることと期待しております。

### (3) 優良部署表彰

内子町環境マネジメントに取り組む部署において、優秀な取り組みを実施している部署を表彰しています。その取組をたたえるとともに、他の部署に水平展開できるよう、周知をはかる目的も有しています。

これまで、うちエコ政策監査結果を基に選考し、監査チームより推薦を受け、表彰をしていましたが、今年度は、大人のエコ見回り隊からも推薦をいただき、以下の5部署について表彰しました。

#### ③-1. うちエコ政策監査 監査期間:平成30年11月26日から28日(一部22日)

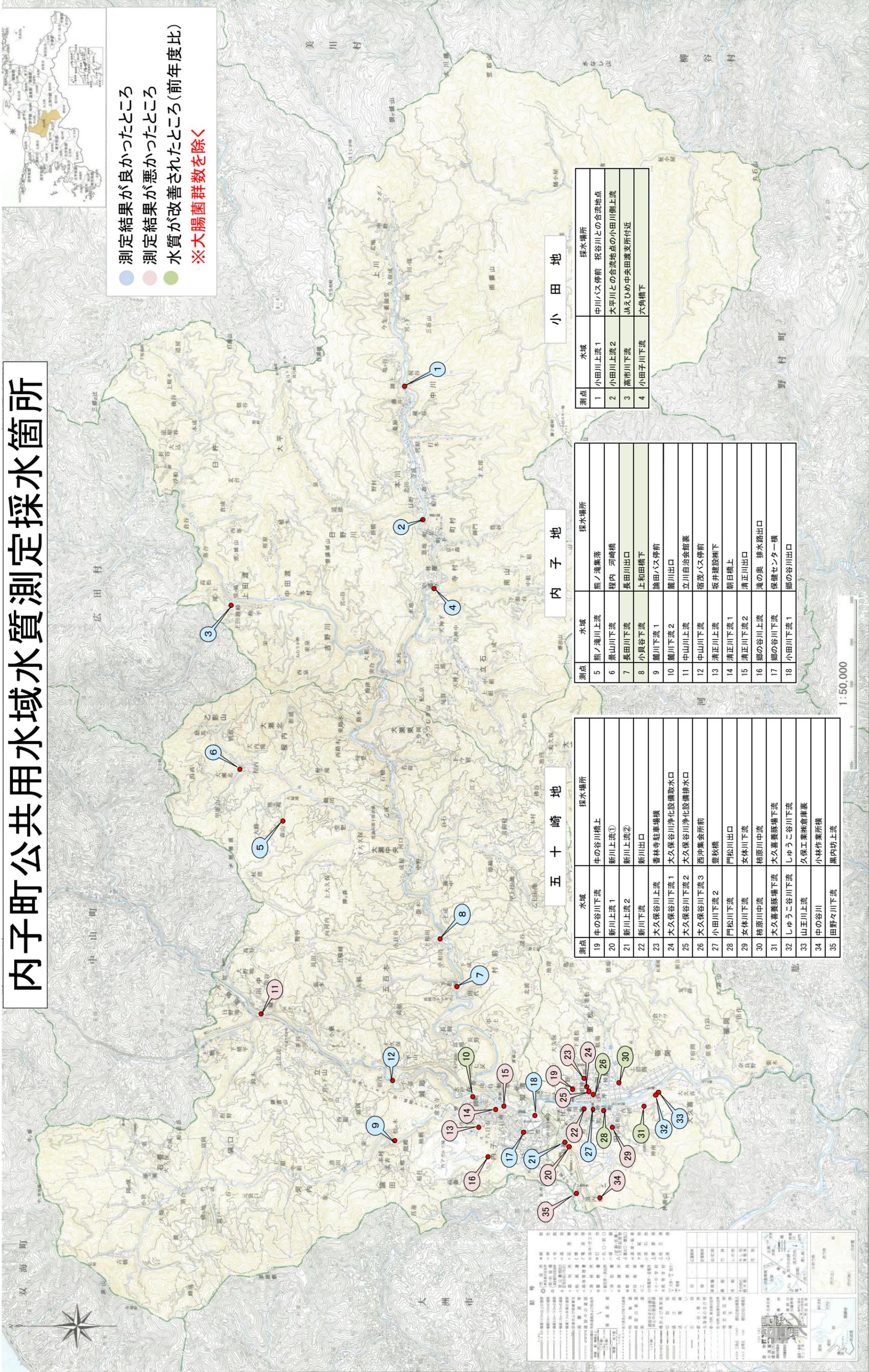
部署名	推薦理由
会計課	職員への意識啓発として、定期的に環境に関する話題(最近ではマイクロプラスチック問題)を取り上げ、職員間で情報共有されておられるところがすばらしいと感じました。環境への取組が限定的な部署でありながら、こうした取組ができるという模範的な取り組みだと思います。
小田幼稚園	自然分野において、体験だけでなく、学習を含めた教育が実践できており、地域の人材との連携も継続するだけでなく、新たな人材も受け入れながら実践できている点はすばらしかったです。先生ご自身が体験されたことを新たな人材発掘に結び付け、町民の方と連携した環境教育を実践できている点はとてもすばらしいと感じました。用紙をラミネート加工し、それを万年カレンダーにしたり、お知らせボードとして活用したりするアイデアがすばらしかったです。
石畳小学校	地域住民や保護者の協力のもと、ホタルやアユの放流を通じて環境保全、環境教育に取り組んでおられました。自治会やボランティア、自主防災会と連携し、安全面の確保に向けての要望をしたり、またそれに地域が応えて遊具の改修が行われたりするなど、地域との連携が環境の枠を超えて安全教育・防災教育にも取り組まれているところがすばらしいと感じました。

#### ③-2. 大人のエコ見回り隊 監査期間:平成31年1月24日から25日(一部23日)

部署名	推薦理由
内子幼稚園	総合的に非常に優れた取組が実践されています(☆5つ、◎2つ)。とりわけ、園での活動において、子ども達への環境教育の視点がそのほとんどに盛り込まれ、実践されている上、そうした活動に、保護者や地域の住民、環境団体等が関わりながら取組が推進されており、非常にすばらしいと感じました。
立川小学校	総合的に非常に優れた取組が実践されています(☆5つ、◎1つ)。中でも、子ども達に自然やエコを実体験で伝え、気持ちを育てる教育が実践されるとともに、環境への取組が様々な分野で表彰を受け、それを地域に伝える事でまた協力体制がとれるといった、好循環の構図が生まれていました。

# 環境データ (1) 河川に関すること

## 内子町公共用水域水質測定採定水箇所



● 測定結果が良かったところ  
 ● 測定結果が悪かったところ  
 ● 水質が改善されたところ(前年度比)  
 ※大腸菌群数を除く

### 五十崎地

測点	水域	採水場所
19	年の谷川下流	年の谷川橋上
20	新川上流1	新川上流①
21	新川上流2	新川上流②
22	新川下流	新川出口
23	大久保谷川上流	香林寺駐車場横
24	大久保谷川下流1	大久保谷川浄化設備取水口
25	大久保谷川下流2	大久保谷川浄化設備排水口
26	大久保谷川下流3	西沖集会所前
27	小田川下流2	豊秋橋
28	門松川下流	門松川出口
29	女性川下流	女性川下流
30	柳原川中流	柳原川中流
31	大久保善養寺下流	大久保善養寺下流
32	しゅうご谷川下流	しゅうご谷川下流
33	山王川上流	久保工業株倉庫裏
34	中の谷川	小林作業所横
35	田野々川下流	黒内坊上流

### 内子地

測点	水域	採水場所
5	熊ノ滝川上流	熊ノ滝集落
6	景山川下流	程内 河崎橋
7	長田川下流	長田川出口
8	小貝谷下流	上和田橋下
9	龍川下流1	龍田バス停前
10	龍川下流2	龍川出口
11	中山川上流	立川自治会館裏
12	中山川下流	宿茂バス停前
13	清正川上流	坂井建設様下
14	清正川下流1	朝日橋上
15	清正川下流2	清正川出口
16	郷の谷川上流	郷の奥 排水路出口
17	郷の谷川下流	保健センター横
18	小田川下流1	郷の谷川出口

### 小田地

測点	水域	採水場所
1	小田川上流1	中川バス停前 釈谷川との合流地点
2	小田川上流2	大平川との合流地点の小田川側上流
3	高市川下流	みえひめ中央田圃支所付近
4	小田子川下流	六角橋下

**記号**

○ 国土地理院「デジタル地形図」(25,000)より作成  
 ● 水質測定採定水箇所  
 ● 大腸菌群数測定箇所  
 ● 水質改善箇所(前年度比)  
 ● 水質悪化箇所(前年度比)  
 ● 水質良好箇所(前年度比)

○ 国土地理院「デジタル地形図」(25,000)より作成  
 ● 水質測定採定水箇所  
 ● 大腸菌群数測定箇所  
 ● 水質改善箇所(前年度比)  
 ● 水質悪化箇所(前年度比)  
 ● 水質良好箇所(前年度比)

○ 国土地理院「デジタル地形図」(25,000)より作成  
 ● 水質測定採定水箇所  
 ● 大腸菌群数測定箇所  
 ● 水質改善箇所(前年度比)  
 ● 水質悪化箇所(前年度比)  
 ● 水質良好箇所(前年度比)

公共用水域水質測定分析結果一覧表 平成31年度(令和元年度)

地 区	小田地区(4箇所)				内 子 地 区 ( 14箇所 )														
	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	
測 点	小田川上流1	小田川上流2	高市川下流	小田子川下流	熊ノ滝川上流	景山川下流	長田川下流	小貝谷川下流	麓川下流1	麓川下流2	中山川上流	中山川下流	清正川上流	清正川下流1	清正川下流2	郷の谷川上流	郷の谷川下流	小田川下流1	
水 域																			
採 水 場 所	中川バス停前 祝念川との合流地点	大平川合流 地点の小田川(新規)	JAEひめ 中田渡支所 付近(新規)	六角橋下 (新規)	熊ノ滝 集落	程内 河崎橋	長田川出口 (新規)	上和田橋下 (新規)	論田 バス停前	麓川 出口	立川 自治会館裏	宿茂 バス停前	坂井建設 (橋下)	朝日橋上	清正川 出口	滝の奥 排水路 出口	保健 センター横	郷の谷川 出口	
採 水 月 日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	9月5日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	8月13日	
採 水 時 刻	15:10	15:00	16:20	13:40	12:10	11:45	13:10	10:45	9:20	9:00	14:25	14:00	13:35	13:20	13:00	11:35	11:10	10:50	
測定項目	基準値																		
天候	曇り	曇り	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ							
気温(°C)	28	32	28	30	26	28	30	32	33	30	36	36	34	36	33	35	36	36	36
湿度(%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水温(°C)	21	21	20	20	20	22	21	21	22	23	30	29	30	32	33	27	30	29	29
流量(m <sup>3</sup> /min)	150	220	84	55	7.8	17	11	15	47	83	35	58	0.1	0.2	0.3	0.5	1.8	170	170
PH	7.9	7.9	7.7	8.0	7.3	7.4	7.7	7.4	8.0	8.1	8.6	8.5	7.9	10.1	10.5	8.1	8.0	8.2	8.2
(水温)	(20 °C)	(21 °C)	(21 °C)	(22 °C)	(21 °C)	(21 °C)	(21 °C)	(22 °C)	(22 °C)	(22 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(23 °C)	(23 °C)	(23 °C)	(23 °C)	(23 °C)
DO(mg/L)	8.8	8.7	8.9	8.9	8.7	8.9	8.8	8.5	9.1	9.5	8.8	8.9	5.4	11.3	8.9	7.5	8.5	8.6	8.6
BOD(mg/L)	1.0	0.8	1.1	1.2	0.6	0.5	0.9	0.7	0.8	0.9	0.9	0.8	1.6	1.5	2.8	1.5	0.9	<0.5	<0.5
COD(mg/L)	2.0	2.0	1.8	2.6	2.1	1.8	2.7	1.6	1.1	1.3	1.5	1.4	6.8	7.3	9.3	5.3	2.5	1.5	1.5
SS(mg/L)	5	6	3	4	5	4	12	4	1	1	2	2	13	5	7	3	2	2	2
大腸菌群数 (MPN/100mL)	4,900	4,600	490	3,300	46	49	54,000	4,600	3,300	4,900	490	700	17,000	700	130	2,800	17,000	1,700	1,700
n-ヘキサ抽出 物質(mg/L)	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない
全窒素(mg/L)	0.38	0.45	0.61	0.51	0.50	1.1	0.57	0.60	0.66	0.72	0.81	0.76	0.79	0.66	0.90	0.64	0.50	0.39	0.39
全リン(mg/L)	0.023	0.029	0.025	0.076	0.011	0.020	0.036	0.037	0.012	0.013	0.030	0.024	0.09	0.26	0.26	0.10	0.056	0.013	0.013
カドミウム(mg/L)	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
シアン(mg/L)	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない	検出され ない
鉛(mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム(mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
砒素(mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
総水銀(mg/L)	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
溶解性鉄(mg/L)					0.04	0.03													
銅(mg/L)					0.1	0.1													
【参考】 類型 ※	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA	X	X	X	B	X	X	A	AA	AA	AA	AA

新規採水場所  
 ... 31年度検査で基準値オーバーとなったもの  
 ... 30年度と31年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの  
 ... 30年度検査で基準値オーバーであったが、31年度検査で改善されたもの

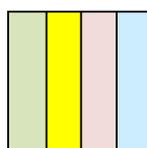
※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。  
 大腸菌群数は、検査日前の降雨の状況(水・水の流れる状況)がせき止められると大腸菌群数の増加要因となることや  
 田畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

公共用水域水質測定分析結果一覧表 平成31年度(令和元年度)

地 区		五 十 崎 地 区 ( 17箇所 )																
測 点	No.19	No.20	No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	No.31	No.32	No.33	No.34	No.35	
水 域	牛の谷川下流	新川上流1	新川上流2	新川下流	大久保谷川上流	大久保谷川下流1	大久保谷川下流2	大久保谷川下流3	小田川下流2	門松川下流	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうご谷川下流	山王川上流	中の谷川	田野々川下流	
採水場所	牛の谷川橋上	新川上流①	新川上流②	新川出口	香林寺駐車場横	大久保谷川浄化設備取水口	大久保谷川浄化設備排水口	西沖集会所前	豊秋橋	門松川出口	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうご谷川下流	久保工業(株)倉庫裏	小林作業所横	黒内坊上流	
採水月日	7月30日	8月13日	8月13日	8月13日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	8月13日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	7月30日	
採水時刻	9:00	9:45	10:10	9:15	10:10	9:30	9:50	9:10	9:00	14:20	11:35	11:15	14:00	13:20	13:45	14:55	15:15	
測定項目	基準値																	
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	
気温(°C)	34	32	32	36	34	34	34	34	30	36	37	38	31	30	32	36	38	
湿度(%)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
水温(°C)	29	26	24	28	29	27	27	26	29	30	27	31	22	20	22	29	31	
流量(m <sup>3</sup> /min)	0.9	0.4	0.5	0.1	0.3	0.1	2.2	2.6	180	11	0.6	1.0	0.3	0.5	0.5	3.5	0.6	
PH	8.7	8.0	8.0	7.7	8.0	7.4	7.6	7.9	7.8	8.2	8.2	8.5	7.8	8.0	7.8	8.3	8.9	
(水温)	(25 °C)	(23 °C)	(23 °C)	(23 °C)	(25 °C)	(25 °C)	(25 °C)	(25 °C)	(23 °C)	(25 °C)	(25 °C)	(25 °C)	(26 °C)	(26 °C)	(25 °C)	(26 °C)	(26 °C)	
DO(mg/L)	11.3	7.6	7.7	4.4	6.0	5.9	6.2	7.8	8.0	8.2	7.9	10.1	7.8	8.9	8.6	6.0	8.8	
BOD(mg/L)	1.1	1.2	0.8	1.8	4.2	7.4	3.9	0.9	1.0	1.0	1.4	1.0	<0.5	<0.5	<0.5	2.1	1.0	
COD(mg/L)	2.8	3.1	2.8	5.3	3.5	4.7	6.7	1.7	1.6	2.0	3.1	2.4	2.2	0.5	0.8	11	2.8	
SS(mg/L)	1	4	5	14	7	2	10	2	2	5	3	2	7	<1	<1	5	2	
大腸菌群数(MPN/100mL)	7,900	17,000	28,000	49,000	4,900	540,000	79,000	17,000	3,300	35,000	54,000	7,900	4,900	1,400	330	35,000	13,000	
n-ヘキサガ抽出物質(mg/L)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	
全窒素(mg/L)	0.45	0.73	0.58	0.8	3.1	5.3	5.1	0.6	0.42	0.58	3.3	0.41	0.95	0.25	0.45	8.5	0.43	
全リン(mg/L)	0.11	0.13	0.12	0.49	0.50	0.85	0.79	0.036	0.023	0.054	0.096	0.058	0.049	0.005	0.013	2.4	0.050	
カドミウム(mg/L)	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0006	0.0011	0.0003未満	0.0003未満	
シアン(mg/L)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	
鉛(mg/L)	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	
六価クロム(mg/L)	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	
砒素(mg/L)	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	
総水銀(mg/L)	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	
溶解性鉄(mg/L)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
銅(mg/L)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
【参考】 類型 ※	X	B	D	B	AA	C	X	B	X	X	X	AA	AA	AA	AA	B	A	

※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。  
 大腸菌群数は、検査日時の降雨の状況(水・水の流れ・水温・流量)がせき止められると大腸菌群数の増加要因となることや  
 田畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

… 新規採水場所  
 … 31年度検査で基準値オーバーとなったもの  
 … 30年度と31年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの  
 … 30年度検査で基準値オーバーであったが、31年度検査で改善されたもの



環境データ (2) ごみに関すること

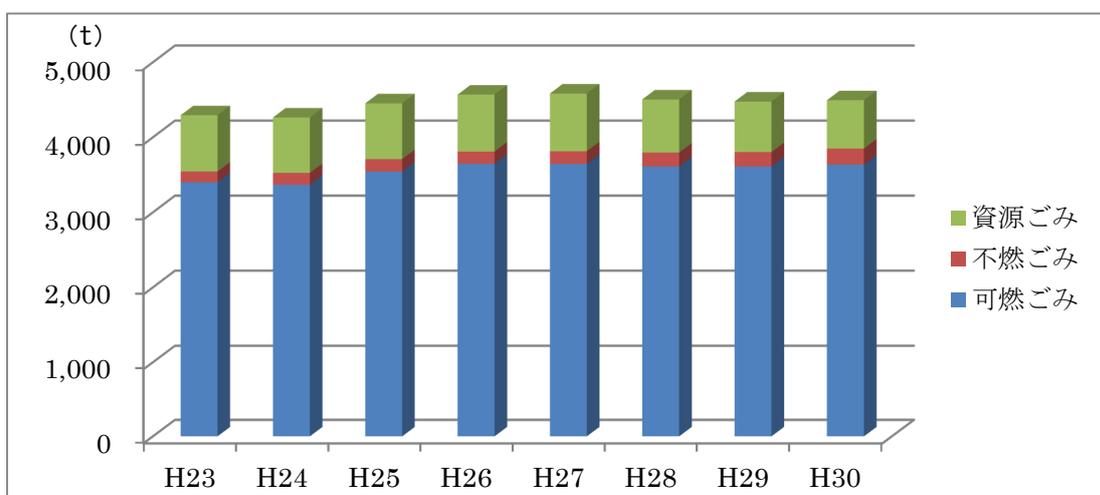
1. ごみ排出量 (内子町環境政策室調べ)

①ごみ排出量

\* 事業系ごみを含む

(単位 : t)

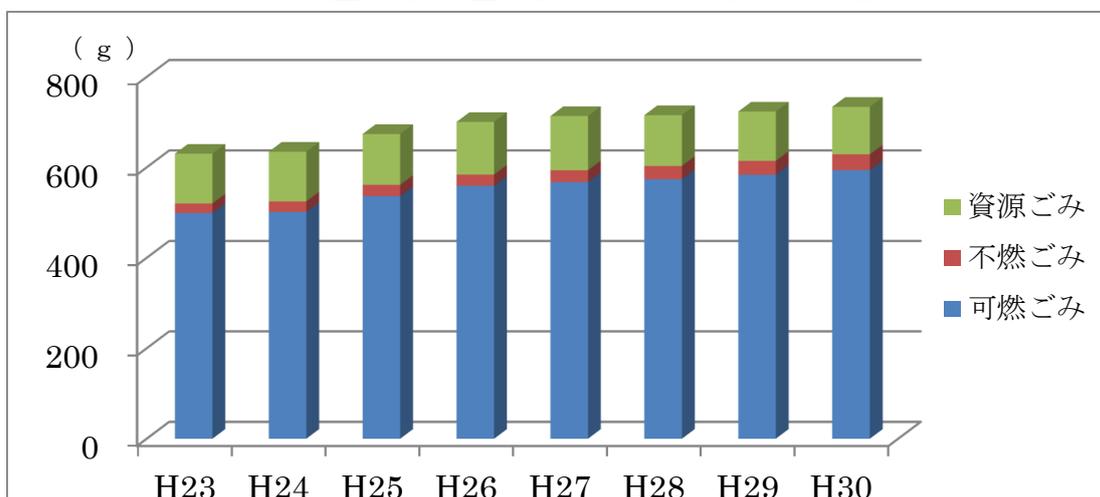
収集区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
可燃ごみ	3,400	3,368	3,543	3,647	3,645	3,612	3,611	3,637
不燃ごみ	144	157	166	162	168	185	191	213
資源ごみ	749	738	743	760	770	707	674	644
合計	4,293	4,263	4,452	4,568	4,583	4,504	4,476	4,494



②ごみ・資源物排出量 (一人一日あたりのごみ・資源物排出量) (単位 : g)

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
人口	18,666	18,408	18,103	17,867	17,599	17,249	16,954	16,779
可燃ごみ	499	501	536	559	567	574	584	594
不燃ごみ	21	23	25	25	26	29	31	35
資源ごみ	110	110	112	116	120	112	109	105
合計	630	635	674	700	713	715	723	734

一人一日あたりごみの排出量 = 総ごみ量 ÷ 各年の 10/1 日現在人口 ÷ 各年の日数



## 2. ごみ資源化（内子町環境政策室調べ）

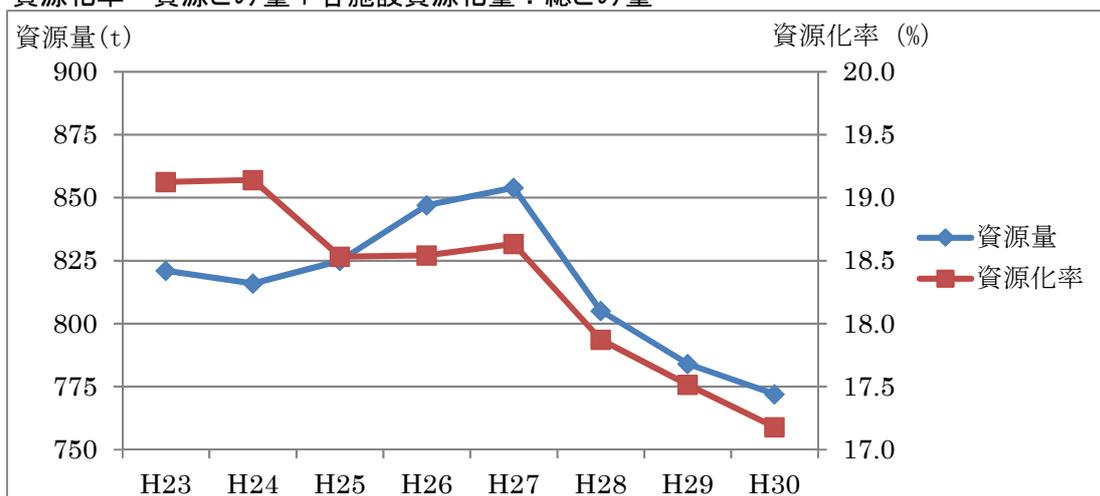
### ①ごみ資源化率

\* 事業系ごみを含む

（単位：年度・t）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
資源量	821	816	825	847	854	805	784	772
資源化率	19.1	19.1	18.5	18.5	18.6	17.9	17.5	17.2

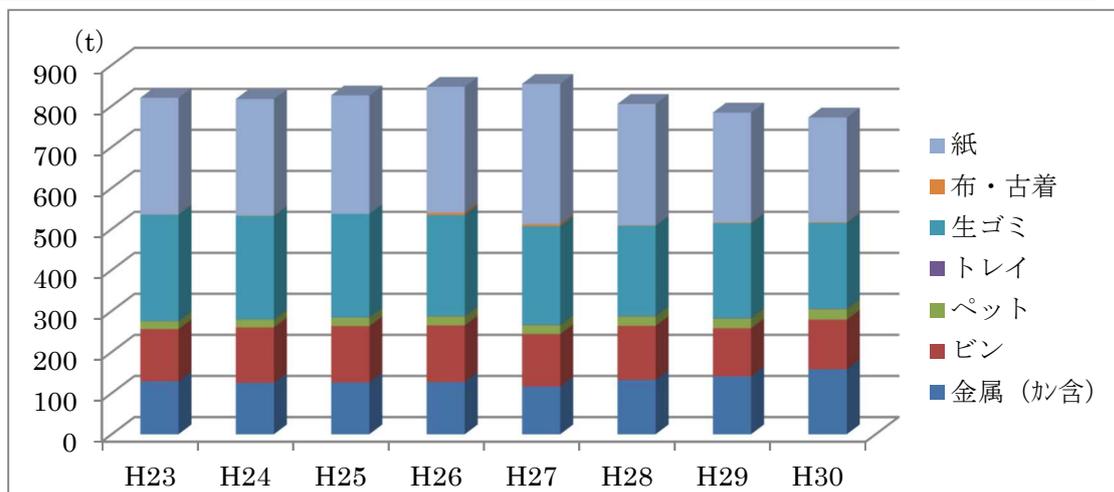
資源化率＝資源ごみ量＋各施設資源化量÷総ごみ量



### ②ごみ資源化量内訳

（単位：年度・t）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
金属(か含)	129	125	126	127	116	132	141	158
ビン	127	135	137	138	128	132	117	121
ペット	19	19	21	22	22	23	24	26
トレイ	1	1	1	1	1	1	1	1
生ゴミ	259	252	252	246	240	220	231	209
布・古着	1	1	0	6	5	1	1	2
紙	284	284	289	307	342	296	268	255
合計	820	817	826	847	854	805	784	772



### 3. ごみ処理量（内子町環境政策室調べ）

#### ①焼却処理量

\* 事業系ごみ含む

（単位：年度・t）

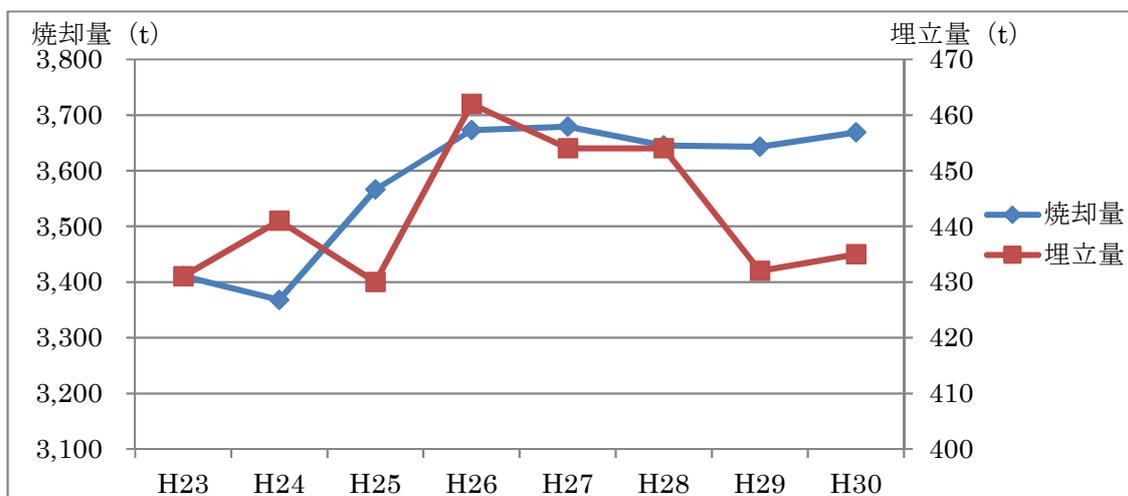
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
焼却量	3,411	3,368	3,566	3,673	3,676	3,645	3,643	3,669

#### ②埋立処理量

\* 事業系ごみ含む

（単位：年度・t）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
埋立量	441	430	462	454	454	441	432	435





## 内子町環境報告書 2018

---

編集・発行 内子町環境政策室  
発行年月 令和2年3月